

第二十三回 帝國議會 貴族院議事速記錄第十一號

明治四十年三月十一日(月曜日)

午前十時五分開議

議事日程 第十一號 明治四十年三月十一日

午前十時開議

- 第一 男爵藤村紫朗君請暇ノ件
第二 海港検疫法中改正法律案(政府提出)
第三 濱豫防ニ關スル法律案(政府提出)
第四 韓國森林特別會計法案(議院送付)
第五 印紙稅法中改正法律案(衆議院提出)
第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第七 關稅定率法輸入稅表中改正法律案(衆議院提出)
第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第九 戶籍法中改正法律案(衆議院提出)
第十 樺太島開發ニ關スル請願
第十一 利根川治水速成ニ關スル請願
第十二 森林法中改正ノ請願
第十三 登錄稅法中改正ノ請願
第十四 利根川河身改修速成ノ請願
第十五 根室鐵道速成ノ請願
第十六 平戶區裁判所御厨出張所設立ノ請願
第十七 電線架設ノ請願
第十八 渡良瀬川河身改修ニ關スル請願
第十九 渡良瀬川沿岸特別地價修正漏再修正ノ請願
第二十 鑛毒被害地地價修正漏地價再修正ノ請願
第二十一 鑛毒被害地地價修正ニ對シ再修正ノ請願
第二十二 渡良瀬川沿岸地方特別地價再修正院議實行ノ請願

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス
〔東久世書記官朗讀〕

去ル六日政府ヨリ明治三十八年四月一日ヨリ同三十九年三月三十日ニ至

ル各省所管官有財產増減異動報告書ヲ受領セリ

同日本院ニ於テ修正議決シタル明治四十年度各特別會計歲入歲出總豫算案ハ翌七日之

ヲ衆議院ニ回付セリ

同日本院ニ於テ議決シタル明治四十年度各特別會計歲入歲出豫算案及豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件ハ翌七日裁可ヲ奏請シ及可

決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

同日本院ニ於テ議決シタル左ノ政府提出案ハ翌七日裁可ヲ奏請シ及可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

鐵道敷設法中改正法律案

東京府北多摩郡埼玉縣北足立郡境界變更法律案

煙草專賣法中改正法律案

帝國大學特別會計法案

同日本院ニ於テ修正議決シタル政府提出學校及圖書館特別會計法案ハ翌七日之ヲ衆議院ニ回付セリ

同日本院ニ於テ議決シタル衆議院提出裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案ハ翌七日裁可ヲ奏請シ及可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

同日本院ニ於テ採擇ヲ議決シタル左ノ各請願書ハ意見書ヲ付シ翌七日之ヲ政府ニ送付セリ

裁判所管轄變更ノ請願

商法中預證券及質入證券ニ關スル規定改正ノ請願

鐵道速成ノ請願

越羽沿岸鐵道速成ニ關スル請願

第二十三 洒田新莊間鐵道速成ノ請願
第二十四 越羽沿岸鐵道速成ノ請願
第二十五 船形酒田間鐵道速成ノ請願
第二十六 宮津福知山間鐵道急設ノ請願

會議會議會議

登記所新設ノ請願

非常特別稅法改正ノ請願

渡良瀬川河身改良ノ請願

出獄人保護事業ノ請願

北海道鐵道天鹽北見線工事速成ノ請願

渡良瀬川地方特別地價修正遺漏地地價修正ノ請願

鑛毒被害地特別地價修正遺漏地地價修正ノ請願

羽越線速成ノ請願

同日戸籍法中改正法律案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

委員長 侯爵細川 護成君 副委員長 富井 政章君

去ル七日各特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

輸入原料砂糖戻稅法中改正法律案特別委員會

委員長 子爵谷 千 城君 副委員長 子爵鍋島 直彬君

郡制廢止法律案特別委員會

委員長 子爵曾我 祐準君 副委員長 子爵加納 久宜君

一昨九日韓國森林特別會計法案特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ
委員長 伯爵正親町 實正君 副委員長 中島 永元君

同日政府ヨリ日本勸業銀行法中改正法律案ヲ受領セリ

同日衆議院ヨリ本院ノ回付ニ係ル明治四十年度歲入歲出總豫算案ハ本院ノ

修正ニ同意シ奏上シタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

同日衆議院ヨリ本院ノ回付ニ係ル政府提出學校及圖書館特別會計法案ハ本

院ノ修正ニ同意シ奏上シタル旨ノ通牒ヲ受領セリ

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

明治三十九年度歲入歲出總豫算追加案(第三號)一
種牡牛検査法案

市制改正法律案

町村制改正法律案

同日衆議院ヨリ左ノ同院提出案ヲ受領セリ

右議院法第四十八條ニ依リ及質問候也

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス
○伊澤修二君 本員ハ此場合ニ豫ネテ提出シテアリマスル質問ノ趣旨ヲ演説
イタシタウゴザイマス、文部大臣ハ出席シテ居ラマスカ

○議長(公爵德川家達君) 御登壇ヲ願ヒマス

○伊澤修二君 チヨット伺ヒマスガ、文部大臣ハ出席ニナッテ居リマスカ
○議長(公爵德川家達君) 本日ハ病氣デ出席ガ出來ナイサウデアリマス
〔左ノ質問主意書ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノ爲メ茲ニ載錄ス〕

國語及字音假名遣ニ關スル質問主意書

一文部省ハ明治三十三年八月文部省令第十四號小學校令施行規則第二號表

ヲ以テ詔勅、帝國憲法、議院法其ソ他法律命令等ヲ始メトシ帝國議會議事速記録等ニ用ヰ來レル假名遣ト相違セルノミナラス現今一般ノ國語學者間並文學社會ニモ認メラレサル所謂棒引假名遣ヲ新定シ且漫ニ假名中ノ「ヰ」「ヱ」「ヲ」ノ三字ヲ刪去シ「ヂ」「ジ」「ヅ」「ズ」ノ別ヲ廢シ之ヲ小學校ノ教科ニ加ヘテ全國ノ就學兒童ニ強課シタリ文部大臣ハ其ノ職權ヲ以テ國語字音ヲ輕々ニ改廢シ得ルモノト思惟スルカ

一文部大臣ハ明治三十九年十二月第十回高等教育會議ニ諮詢シ曩ニ制定シタル棒引假名ヲ廢シ之ニ代フルニ「ア」「イ」「ウ」「オ」ノ三字ヲ以テシ尙「カ」ト「クワ」ノ別ヲ廢シ「ハ」「ヒ」「フ」「ベ」「ボ」「ヲ」「ワ」「エ」「オ」ニ改メタル一種ノ改定案ヲ提出シ既ニ其ノ議決ヲ經テ明治四十一年四月ヨリ之ヲ小學校ニ實施シ尙進テ中等教育ノ學校ニモ之ヲ課セムトスト聞ク果シテ然ラハ曩ニ棒引假名ヲ一千餘萬ノ生徒ニ強課セシハ徒ニ誤謬ヲ傳ヘタルニ止マリ國家教育ノ本旨ヲ過チタルモノニ非サルカ

一前項高等教育會議ノ諮詢ヲ經タル假名遣モ亦往年ノ棒引假名遣ト同シク從來慣用セラル假名遣ト一致セサルハ勿論一般ノ國語學者間及文學社會ニモ容認セラレサルモノナレトモ文部大臣ハ獨斷ヲ以テ之カ實行ノ責ニ任セムトスルカ

明治四十年三月二日

提出者 伊澤修二
賛成者 侯爵久我通久
外四十六名

〔伊澤修二君演壇ニ登ル〕

○伊澤修二君 諸君、本員ハ是ヨリ豫ネテ提出シテ置キマシタ國語及字音假名遣ニ關スル質問ノ趣旨ヲ演述イタシマスゴザイマス、本員ハ元來教育社會ノ出身タルニ拘ラズ茲ニ此質問ヲ提出スルノ已ムヲ得ザルニ至リマシタコトハ深ク自ラ遺憾ト考ヘマスルコトゴザイマス、併ナガラ身苟モ本院ノ一席ヲ占メテ居リマスル以上ニハ知ヅテ而シテ言ハザルハ即チ不忠ノ罪ニ陷入次第デゴザイマスルカラシテ、聊カ忌憚スル所ナク事實ヲ事實トシテ茲ニ陳辯イタシマシテ諸君ノ御判断ヲ請ヒ、又政府ニ對シマシテハ大ニ反省セラレマシテ翻然其過ヲ改ムルコトニ客ナラヌコトヲ希望スルノ外ハゴザイマセヌ、此假名遣ノ問題ハ頗ル複雜シタ問題デゴザイマシテ、實ニ數年ニ涉ッテ居リマスル大問題デゴザイマス、故ニ成ルベク簡明ニ陳辯イタス積リデハゴザイマスガ、勢ヒ少シク時間ヲ要スルコトデゴザイマセウト存ジマスカラ、此段ハ諸君ノ御諒察ヲ豫ネテ請ヒ置キマスル次第デゴザイマス、抑、此問題ハ如何ナル事カラ起テ來タクト申シマスト、教育者ノ間ニ於テ我ガ國語ノ書キ方ガ誠ニ困難デアルカラ、ドウカ之ヲ簡單ニシタイト云フコトヲ唱ヘタノハ、是ハ數年來ノコトデゴザイマス、固ヨリ國語ト云フ様ナモノハ性質トシテ教ヘルニムヅカシイ筈デアルノデアリマス、然レドモ教育者トシテハ成ルベク容易イタモノヲ正シイ發音ヲ以テ話シ又ハ讀ムコトデアリマス、此ニノ學科ト方ト話シ方トハ別ノ學科ニナツテ居ル、即チ一ハ「オルソグラフヰ」ト申シテ文字ヲ正シク綴ルコトノ學科ト、「オルソエビー」ト申シマシテ、是ハ即チ書イタモノヲ正シイ發音ヲ以テ話シ又ハ讀ムコトデアリマス、併シテ居ルコトハ諸君ノ御承知ノ通リノ次第デアリマス、併ナガラ唯除外トモ云此文明諸國ノ苟モ歴史並ニ文學ノアル國ニ於テハ此ニノ學科ハ兩々對立シテ居ルコトハ諸君ノ御承知ノ通リノ次第デアリマス、併ナガラ唯除外トモ云フベキコトハ歐羅巴人ガ野蠻ノ國ニ行ッテ、サウシテ其國ノ言葉ヲ書クトキニハ固ヨリ野蠻國ニハ文學モ歴史モ有ル道理ガ無イカラシテ發音スル通リニ書クノデアル、又或ハ半開化ノ國ニ行キマシテモ、矢張リ其國ノ歴史或ハ其國ノニ之ヲ教ヘルヤウニシタイト云フコトハ是ハ人情ノ欲スル所デゴザイマスルカラシテ、之ヲ教育者カラ唱ヘタノモ無理ナラヌコト申サヌケレバナラヌト思ヒマス、併ナガラ此問題ハ決シテ單ニ教育上ノ問題デハゴザイマセヌ、政治上ニモ社會上ニモ且又文學上ニモ大關係ノアル問題デゴザイマスルノニ、當局者ハ深ク是等ノ點ニ思ヒ及バズシテ遂ニ此問題ノ起ル原因ヲナシタル後ニ、即チ此教育者等ノ聲ニ引カレマシテ餘り深ク種々ノ關係ニ思ヒ及ボサズシテ、小學校令施行規則ト云フモノヲ設ケマシタ、其中ニハ謂ハユル棒引假名ト云フモノモゴザイマス、又「ワボウエヲ」ノ「ヰエヲ」ノ三字ヲ削リ、ソレカラ「クワ」ヲ「カ」ニ「グワ」ヲ「ガ」ニ「ヂ」ニ「ヅ」ヲ「ズ」ニ改メルト

云フ様ナコトヲシタノデアリマス、併シ此時ニハマダ「クワ」「グワ」「ヂ」「ヅ」タガ、其後ニ國定教科書ニハ總テ之ヲ改メテ仕舞ッタノデアリマス、其コトハ後ニ委シク申述ベマセウト思ヒマス、之ヲチヨット觀テ見マスルト誠ニ簡單ナルコトノ様ニアリマスルケレドモ、其事ハナカ／＼重大ナル問題デゴザイマス、少クトモ此以下ニ申述ベマスルダケノコトハ研究シタ上デナクテハ決定ノ出來得ベキモノデハ無カラウト思ヒマス、第一ニハ此教育者ガ我ガ國語ノ書キ方ハムヅカシイト云フコトヲ頻ニ申シマスガ、果シテ我ガ國語ト云フモノハ他ノ文明諸國ノ、或ハ英吉利ナリ佛蘭西ナリノ國語ニ比較シテムヅカシイカ、ヤサンシイカ、ト云フコトハ能ク考ヘテ見ナクテハナルマイト思ヒマス、何レノ國語デゴザイマシテモ、苟モ文明ノ進ンダ所ノ國語ニハ皆書キ方ト話シ方トハ別ノ學科ニナツテ居ル、即チ一ハ「オルソグラフヰ」ト申シテ文字ヲ正シク綴ルコトノ學科ト、「オルソエビー」ト申シマシテ、是ハ即チ書イタモノヲ正シイ發音ヲ以テ話シ又ハ讀ムコトデアリマス、此ニノ學科ト云フモノハ兩々對立シテ居ルモノデアリマス、若シ是ガ書イタ通リニ讀メルコトナラバ決シテ「オルソグラフヰ」ト云フ學科ハ要ラナイノデアル、併シテ居ルコトハ諸君ノ御承知ノ通リノ次第デアリマス、併ナガラ唯除外トモ云此文明諸國ノ苟モ歴史並ニ文學ノアル國ニ於テハ此ニノ學科ハ兩々對立シテ居ルコトハ諸君ノ御承知ノ通リノ次第デアリマス、併ナガラ唯除外トモ云フベキコトハ歐羅巴人ガ野蠻ノ國ニ行ッテ、サウシテ其國ノ言葉ヲ書クトキニハ固ヨリ野蠻國ニハ文學モ歴史モ有ル道理ガ無イカラシテ發音スル通リニ書クノデアル、又或ハ半開化ノ國ニ行キマシテモ、矢張リ其國ノ歴史或ハ其國ノアリマス、布哇ニハ百年前後クラホカラ大ニ歐羅巴人ガ這入リ込ミマシテ、文學ト云フ様ナモノハ眼中ニ置カズニ歐羅巴人ノ用井ル所ノ羅馬字ヲ以テ書クノデアリマス、是ハ最モ近イ例ハ我ガ鄰國トモ申シテ宜シイ所ノ布哇デアリマス、布哇ニハ百年前後クラホカラ大ニ歐羅巴人ガ這入リ込ミマシテ、仕舞ツタノデアリマス、勿論布哇ノ國語ニ顧ミルコトモ何ニモナクシテヤツタ、レカラ然ル後ニ今度ハ其學科ニ英語ヲ加へ皆其英語ニスルト云フコトニシテコト思ハレマス、文部省ハ明治三十三年八月ニ小學校令ヲ改正頒布シマシタル後ニ、即チ此教育者等ノ聲ニ引カレマシテ餘り深ク種々ノ關係ニ思ヒ及ボサズシテ、小學校令施行規則ト云フモノヲ設ケマシタ、其中ニハ謂ハユル帝ガ其國ノ亡ビルニ當ツテ大統領ノ白屋ニ行ッテ涙ヲ流シテ歎イタガ、ドウモ棒引假名ト云フモノモゴザイマス、又「ワボウエヲ」ノ「ヰエヲ」ノ三字ヲ削リ、ソレカラ「クワ」ヲ「カ」ニ「グワ」ヲ「ガ」ニ「ヂ」ニ「ヅ」ヲ「ズ」ニ改メルト最早布哇ノ人民ニハ一滴ノ同情ノ涙ヲ流ス者モ無カツタ、ソレハナゼデアルカト云フニ、我國ノ歴史ヲ忘レ我國ノ國語ヲ忘レタ國民ガ、如何ニシテ同感

ノ涙ヲ流シマセウ、是ハ決シテ布畦ノミニハ限ラヌ、併シ布畦ノ例ノ如キハ實ニ我ニガ眼ノ先ニ見タ例デアル、最モ近イ例デアルト思ヒマスカラ、チヨット御参考ノ爲ニ申シタニ過ギマセヌ、是ハ御参考ノ爲ニ申シタノデ、餘事ニ涉ツテ甚ダ恐縮デゴザイマスガ、併シ我國語ノ書キ方ヲ簡單ニシテ教ヘタナラバ、ソレハ教ヘルニハ容易デゴザイマセウガ、併ナガラ教ヘタ後ニソレガ世ノ中ニ通ジナカッタナラバ、其不便ハ如何デゴザイマセウカ、學校ニ於テ學科ヲ教ヘルノハ現在ノ世ノ中ニ通ジテ我ニ國民ト同ジ國民ヲ拘ヘル爲ニ教ヘルノデハアリマスマイカ、然ルニ教育者ガ教ヘルニ易イカラト云ッテ成ルタケ簡單ナモノヲ教ヘテ、ソレガ世ノ中ニ通ゼヌト云フコトニナッタナラバ、是ハ如何デゴザイマセウ、先ヅ此點ハ後ニ委シク論辯スルコトニ致シマシテ、進ンデ此改正ノ爲ニ如何ナル關係ヲ官ノ文書及一般ノ文學ニ及ボシタカト云フコトヲ一言申述べマスデゴザイマス、御承知ノ通り我國ノ詔勅法律ヲ始トシテ官ノ文書ニハ皆一定ノ書キ方ガゴザイマス、ソレハ今私ガ申スマデモ無イコトアリマス、其書キ方ハ如何ニスルカト申セバ、苟モ公式令ヲ以テ出ル所ノ官文書ト云フモノハ皆其假名遣ガ一定シテ居リマス、ソレハ如何ニ一定シテ居ルカト云ヘバ、我ガ帝國憲法トソレカラ議院法ト云フモノノ假名遣ニ據ルコトニナッテ、今日マデハソレデ來テ居ルヤウデゴザイマス、昨年又兩院ノ事務局ト法制局トノ間ニ協議ガ成立チマシテ、用文例用字例ト云フモノガ出テ居リマス、其用字例モ要スルニ先ニ準據シテ居タモノト同ジデアッテ、少シノ違ヒデアリマス、唯法典ハチヨット假名遣ガ違ヒマスガ、ソレモ「其ノ」ノ「ノ」ヲ送ルカ送ラヌカ位ノ違ヒデ、大體ハ一致シテ居ルノデアリマス、デ我ガ國民トシテ、立憲國ノ國民トシテ第一、此詔勅、法令ヲ重ンジ、則チ之ニ遵由シテ參ラヌケレバナラヌクハ申スマデモナイコトデゴザイマセウ、然ルニ此文部省デ初メニ定ノマシタ所ノ此假名ニ於テハ「ワヰウエヲ」ノ「ヰ」ヲ除イテアル、「ヰウエヲ」ノ「ヰ」ノ字ハ諸君モ御承知ノ通り帝國憲法ヲ始メ其他ノ法律ニモ「用ヰ」ト云フ場合ニハ「ヰ」ノ字ガ用ヰテアルノデアル、ソレカラ又此「ワヰウエヲ」ノ「ヰ」ヲ除イテアル、此「ヰ」ノ字ハ御承知ノ通リ天爾波ノ「ヰ」デアッテ最モ大切ナ「ヰ」ノ字デアル、今日一時間一刻タリトモ此「ヰ」ノ字無シニハ我ニハ行カレナイト云フホド大切ナ「ヰ」ノ字デアル、然ルニ之ヲ除イテアル、試ニ此帝國憲法ノ第一章ノ「天皇」ト云フ所ニ就イテドレダケ達ツタコトガアルカト云フト、僅ニアノ一章ノ間ニ三十五箇所モ

達ツテ居リマス、デ併ナガラ此「ヰ」ノ字ノコトハ色ミナ歴史ガゴザイマシテ、初メニハ一旦之ヲ取りマシタケレドモ、世論ガ喧マシイカラ、トウ「ヰ」オノ字ヲ止メテ「ヲ」ノ字ニ直シテ仕舞ッタ、ソレカラシテ又竝タト世論ガ起ツテ面倒ニナッテ來テ、今日デハタシカ其「ワヰウエヲ」ノ「ヰ」ノ字ヲ使ツテアル、ソレデ「ヲ」ノ字ハ天爾波ノ場合ニハ使フト云フコトニナッテ居リマスヤウデゴザイマス、斯ノ如ク始終動搖シテ居ツテモ兎モ角モ正シイ方ニスレバ宜イデスガ、其正シクナラナイモノガ澤山ニアリマスカラ、ソレハ後ニ私が委シク申述ベマス、ソレカラ又「ヰ」ノ字モソレモ削ツテ仕舞ッタ、此「ヰ」ノ字ノ如キハ畫ト云フトキニハ「ヰ」ノ字ヲ書キマス、例ヘバ物ノ柄ト云フヤウナ時分ニハ「ヰ」ノ字ヲ書キクト云フコトハ古來決ツテ居ルコトデアル、ソレデ例ヘバ斧ノ「ヰ」ト云フコトガアッタト見テ、其斧ノ「ヰ」ト云フトキニ若シ「ヰ」ノ字ガ書イテアレバ、斧ノ畫ト云フコトハ明デアリ、又斧ノ「ヰ」ト云フトキニ「ヰ」ト云フ字ガ書イテアレバ、ソレハ斧ノ把手デアルト云フコトガ明ニナルト云フ如ク、是ハ極近イ比喩ヲ以テ申シテモ、斯ノ如ク字ガ別ツテ居ルノデ、其意味ガ判然スルノデアル、加之此古來ノ字音假名遣ト云フモノハ、全ク此取調ノトキニハ眼中ニ置カナカッタノデアル、何トナレバ此「威光」ト云フ「威」ハ是ハ「ヰ」ノ字デアル、ソレカラ「伊澤」ノ「伊」ハ「ヰ」デアル、是ガドチラモ之ヲ皆「ヰ」ノ字ニシテ仕舞ッタノデアル、古來ノ字音假名遣ト云フモノハ決シテ是ハ國學者ヤ漢學者ガ物好キニシテ居ルモノデハナイ、而モ此應神ノ朝ニ百濟カラ王仁ガ論語、千字文ヲ獻ジテ以來、二千六百有餘年間、種々ノ學者ガ腦漿ヲ榨ツテ研究ヲシタモノデアル、是又今日ノ支那語ニ當嵌メテ見ルト皆はハ密接ナル關係ガアルノデアル、例ヘバ「袁世凱」ノ「袁」ト云フ音ハソレハ「ヰ」ノ字デアル、ソレカラ煙リノ「煙」ノ字ハ是ハ「ヰ」ノ字デアル、斯ノ如ク餘ホド支那語トモ密接ナル關係ガ有ルノデアル、從來我ニガ今日マデ用ヰテ居ル字音假名遣ト云フモノヲ知ツテ居タナラバ支那語ヲ學ブ上ニドレホド便利ガアルカ、斯ウ云フコトハ私ガ申スマデモナイ次第デアリマス、デ此支那語ト云フモノハ、諸君モ御承知ノ通り今日デハ商業學校ニ大概此科ヲ設ケラレア居ルノデアル、又將來東亞ノ經營ト云フヤウナコトニ就イテ如何ニ肝要ナル位置ヲ占メテ居ルカト云フコトモ私ガ此所デ喋々ト申述ベルマデモナイコトデアリマス、ソレノミナラズ、苟モ此文明諸國ニ於テ鄰接國ノ言葉ヲ中學以上ノ學科ニ加ヘヌト云フ所ハ我輩ハ之ヲ知ラナイ、例ヘバ佛蘭西ナラバ

獨逸語モ近來ハ中學以上ノ必修語ニ加ヘテアル、獨逸ナラバ佛蘭西語ハ無論ノコト英語マデモ加ヘテ居ルト云フガ如ク鄰接國ノ國語ヲ中學以上ノ學科ニ加ヘヌト云フコトハ殆ド文明諸國ニハ無イト言^タテ宜イノデアル、故ニ將來我ガ教育ガ進ムニ當^タテハ中學校以上ニハ必ズ此支那語ヲ加ヘナクテハナラヌ時機ガ來ルト云フコトハ智者ヲ俟タズシテ測リ知ルベキコトデアラウト思ヒマス、ソレニモ拘ラズ此字音假名遣ト云フモノハ唯皆ナ取去^タテ仕舞^タタノデアル、一ツモ眼中ニ置イテ居ラナイ、當時ノ文部當局者ガ之ニ思ヒ及バナカッタト云フノハ、マダ^タ無理ハナイト言ウテ宜イカ知リマセヌガ、今日ニ於テ國語調査會ノ委員ナドガ之ニ重キヲ置イテ居ラナイ、決シテ此事ヲ研究シテ居ラナイ、其證據ハ自分ガ加藤國語調査委員長ニ面會シテ支那朝鮮ノ今日現在ノ音ト字音假名遣ニ用ヰル所ノ音韻ノ密接ナル關係ノアル所ヲ話シタ所ガ、自分ハ初メテサウ云フコトヲ承知シタ、ソレデハ國語調査會ヘ出テ話シテハドウダト云フヤウナ話ガア^タコトガアリマス、ソレヲ加藤委員長ガ國語調査會ニ報告シタ所ガ、國語調査會ト云フモノハ其性、我國ノ國語ノミニ關係シタ調査ヲスル所デアルカラ、左様ナモノハ調査スペキモノデハナイト云フコトヲ答ヘタ、實ニ如何デゴザイマセウ、年々一萬圓ノ國費ヲ以テ國家ガサセテ居ル仕事ニ對シテ如何ニモ不忠實ト云フ誹ヲ免レヌノデハナイカト思ハレル次第デアリマス、デ本員ガ説明スルマデモナク、謂ハユル棒引假名ト云フモノハドウ云フモノデアルカト云フコトハ、御承知デアリマセウガ從來ノ假名遣ニ依レバ「アウ」トカ「アフ」トカ「オウ」トカ書イテ皆「オ」ト讀ンデ居ル、ソレヲ皆「オ」ノ下へ棒ヲ引張^タテ仕舞ハウト云フノデアリマス、「カウ」モ「カフ」モ「コウ」モ「クワウ」モ皆「コ」ノ下ニ棒ヲ引カウト云フノデアリマス、此「カウ」ト云フノハ支那ノ字音デ「カグ」ニナル、ソレカラ「カフ」ト云フノガ「カブ」ニナリマス、「コウ」ト云フノハ「コグ」ニ「クワウ」ト云フノハ「クオアグ」ニナル、皆今日ノ現在ノ音ニ關係シテ居ルノデアリマス、今日マデノ通リノ字音假名遣ラシサヘスレバ自然支那語ナドヲ學ブトキニハ大變、役ニ立ツノデアリマス、朝鮮ニ於テハ最モ朝鮮ノ國語ト日本ノ國語ト、即チ字音ナドノ點ニ於テハ最モ密接ナル關係ガアリマス、ソレハ一々ヨコニ申述ベマセヌ、次ニハ此改正ヲ爲シマスルノニ文部省ハ如何ナル手續ヲ爲シタカト云フコトヲ一ト通りベマスデアリマス、明治三十三年ニ小學校令ノ改正ガ出來、即チ發布ニナッタ後ニ此字音假名遣竝ニ國語假名遣

ニ關スル所ノ問題ハ實ニ咄嗟ノ間ニ決定ニナッタノデアリマス、或ハ是ハ當時ノ一二ノ局長ト次官ノ間カ何カデヤ^タテ仕舞^タコトデハナイカト思ヒマス、餘リ文部省ニ於テモ深イ詮議ノア^タコトトハ思ハレマセヌデアリマス、其當時本員ハ高等師範學校長ノ職ヲ奉ジテ居リマシテ、此事ハ官報ニ出テ初メテ知^タノデアリマス、所ガ此謂ハユル二號表ト云フモノニハ字音假名遣國語假名遣ニ反シマシテ重大ナルモノガ見エマシタ、是ハドウモ捨テ置ク譯ニイカナニ、兎モ角モ斯ノ如キ新シイコトヲスルナラバ先ヅ研究シテ見ナケレバナラス、適否ヲ研究シナケレバナラス、研究スルノハ何所デスルカト言ヘバ無論、高等師範學校デ、高等師範學校ニハ附屬小學校ガ設ケラレテアルカラ、其附屬小學校デ、斯ノ如キ新シキ考案ニ付イテハ研究セネバナラス場所デアリマスカラ、即チ教授等ヲ以テ委員會ヲ組織シテ、サウシテ此調査ニカカッタノデアリマス、所ガ其當時ニ於テ教授等ニモ非常ナ反對ガアリマシタ、殊ニ反對ノアリマシタノハ棒引假名ニ付イテ非常ナ反對ガア^タノデアリマス、併ナガラ文部省ガ之ヲ出シタ以上ハ自分ニ於テハドウシテモ是ハ一ツ適否ヲ研究シナケレバナラス職掌デアリマスカラ、反對ノアルニ拘ラズ、是非之ヲ行フコトニシヤウト云フコトヲ、孜々トシテ調査ヲシテ居^タノデアリマス、然ルニ文部省ハ其調査ガ出來ルノモ何モ待タズニ三十三年ノ十一月ニハ教科書肆ニ命ジテ皆此假名遣ヲ改メサシタノデアリマス、サウシテ三十四年カラシテ之ヲ強行シタノデアリマス、斯ノ如キ次第デアリマスカラシテ決シテ文部省ニ於テ深ク考ヘテ能ク研究ヲ積ンダモノデナイト云フコトハ明デアラウト思ヒマス、ソレデ若シスウ云フヤウナコトヲ將來爲シ得ルモノトシマシタナラバ實ニ危險至極ナモノデハナカラウカト思ヒマス、例ヘバ彼ノ羅馬字問題ノ如キモ本院ニ於テハ更ニ建議案等モ見エマセヌガ、衆議院ニ於テハ此羅馬字採用ノ建議ヲシタサウデゴザイマス、或ハ此筆法ヲ以テシテ行キマシタナラバ此建議ノア^タヲ幸ヒ我ミノ寢テ居ル間ニ我ガ教育界ヲシテ羅馬字ユル棒引假名其他ノ假名遣ト云フモノハ凡ソ六箇年ヲ經タ所ノ今日ニ至^タテ如何ナル有様デゴザイマセウカ、其事ハ私ハ後ニ申上ゲマスデアリマス、ソレデ斯ノ如キ手續デ兎モ角モ咄嗟ノ間ニヤ^タトヨリ外ハ見ルコトハ出來マセヌ、此後ニ文部次官ニナリマシテ實行ノ局ニ當^タタ人ハ誰デアルカト云フ

ト梅法學博士デアリマス、梅法學博士ガ先月刊行ノ太陽、即チ第十三卷ノ第二號ニ載セターツノ意見書ガアリマス、ソレヲ見マスト云フコトハ誠ニ明ニ此實行ニ躊躇セラレタカ、如何ニ困難ヲ感ゼラレタカト云フコトハ誠ニ明ニ見ラレルノデアリマス、故ニ其ノ中ノ極要用ナ所ダケヲ諸君ノ御許可ヲ請ウテチヨット摘讀イタシマシテ御参考ニ供シタイト思ヒマス

この假名遣の問題は、明治三十三年に文部省が小學校令施行規則の中で、字音假名遣の改正をいたし、其後引續いて、國語の假名遣にも改正を加へる必要がありとして、遂にその改訂案を拵へた、この問題は餘程重大な問題で世間でも餘程喧嘩しいのである、私は國文學者でも無し、又從來この問題を特に調べたことは少しも無い、併ながら、一體この國文學者が假名遣の如き問題を自分等のみに定めることが出来ると心得て居るのが大間違である、又世の教育家が之を純然たる教育の問題として、考へて居るもの亦大間違である、夫故に我々の如き世間では、門外漢と思うて居る者も、之れに喙を容れる権利があり尙義務があると思ふ

其アトヲ略シマシテ

尙私は特に此問題に付て意見を公けにする義務がある、その譯は明治三十三年に小學校令施行規則を制定して頒布したのであるが、當時私は文部省に這入つて恰も其省令を豫定の如く施行するや否と云ふ問題に逢著したのである、當時省の内外に於て大分争があつた爲め、或は此省令の施行を延期した方が宜くは無いかと云ふ說も出たのである、然るに私は遂に之を施行することとしたのである、その理由は決して文部省の定めたところの字音假名遣を、全然賛成して居るのではない、賛成せざる點が頗る多いのであるけれども、此の如き問題は到底人々に依つて意見を異にするなどを免かれぬのであるから

アトヲ略シマシテ

甚しき害の無い限りは、之を施行した方が宜からうと思うたのである、然るに當時は單に字音假名遣、即ち漢字の音を假名にして書く場合に如何なる假名を用ゐるかと云ふのが問題であつて、而もそれは小學校に於ける學問上のみの問題であつた

ソレカラアトヲ略シマシテ

若し當時定めたる假名遣に不穩當なる點があるならば、後日之を改むるこ

とも出来るのであるから、兎に角その省令は施行して差支ないであらうといふ所から、遂に之を施行する事としたのである

斯ノ如キ態度デ梅君ナドハ實行サレタノデアリマス、抑、文部省ノ官制ニ依

リマスレバ文部大臣ハ教育學藝ニ關スル事務ヲ管理スルト云フコトニナッテ居リマス、此國語字音ノ問題ノ如キモノハ之ヲ教育事務ノ問題ト申セルモノ

デゴザイマセウカ、決シテ是ハ教育事務ノ問題デハナイ、明ニ是ハ學說上ノ問

題デアル、然ルニ文部大臣ハ如何ナル權能ニ依ッテ其改廢ヲ爲シ得ルモノト

考ヘラレルノデアリマセウ、斯ノ如キ事ヲ爲シ得ルモノトシタナラバ即チ

文部大臣ハ學說ニ立入ッテ學問ノ神聖ヲ侵スト云フコトニナリハセヌカト思

ヒマス、或ハ文部省ニ於テハ是ハ舊來モ斯ノ如キ事ガアッタ、其慣例ニ依ッタ

ナドト云フコトヲ以テ強辯セラルルカモ知レマヒヌガ、併ナガラ我ミノ三十

餘年來、教育界ニ於テ聞知スル所ニ據テ見テモ斯ノ如キ問題ヲ斯ノ如キ輕

卒ナル處斷ヲ以テ實行シタト云フ大臣ハ一人モ無イト思ヒマス、ドウゾ文部

大臣ニハ篤トツ御辯解ニナラムコトヲ望ムノデアリマス、是ヨリ第二段ニ

移リマシテ聊カ陳辯イタシマス、文部省ハ其後、明治三十五年ニ至リマシテ

國語調査會ト云フモノヲ設ケマシタ、此國語調査會ト云フモノハ先日モ澤

柳次官ノ言ハレタ如ク兩院ノ建議ニ依ッテ出來タ所ノモノデアリマス、ソ

レハ事實デアリマス、然ルニ此國語調査會ト云フモノガ如何ナルコトヲシ

テ居ルカト云フコトハ或ハ餘リ委シクハ諸君ニ於テ御承知ガ無カラウト存

ジマスカラ、私ノ此所デ申シ得ル限り申シマス、國語調査會ハ四月ニ開カ

レマシテ五月ニ至ルマデノ間ニ僅ニ七回ノ會議ヲ開キマシテ國語調査ノ方針

ト云フモノヲ議決シテ居リマス、其ノ第一ニハ如何ナル事ガアルカト云フト

「文字ハ音韻文字」其下ニ「ホノグラフ」ト云フコトヲ括弧ニシテ「ヲ採用スル

コトシ假名羅馬字ノ得失ヲ調査スルコト」ト云フコトヲ議決シタノデアリ

マス、此議決ハ或ハ輕シク見マスト何デモ無イヤウデアリマスガ、非常ナ

重大ナ議決デアリマス、如何トナレバ此議決ニ依ッテ漢字全廢ヲ議決シタ譯

デアリマス、漢字全廢ヲ議決シタト云フコトハ何デアルカト云ヘバ此所ニ「ホ

ノグラフ」ト云フ字ヲ入レテ「漢字ハ英語デ言ヘハ「イディオグラフ」意義

ノ字デ、意義ノ字ト音ノ字ト二ツニ分ケテアル、其ノ「イディオグラフ」漢字

ト云フモノヲ全廢スルト云フコトヲ此處デ議決シタノデアリマス、サウシテ

今日ニ至ッタノデアリマスカラ、先づ此議決ヲシテ、ソレカラ跡ハ道行キデ

アリマス、道行キノ爲ニ國語ヲ殆ド傷ツケ國語ノ語源ヲ素スコトニ非常ニ力
ヲ盡シテ居ルト云フ事實ハ後ニ申述ベヌス、而シテ又一部ノ教育者等ノ言ヲ
聞イテ、從來ノ慣例ニ依ルモ差支ナイト前キニ決定シテ居ッタ所ノ「チ」ニ濁
リヲ打ッタ「ヂ」、「シ」ニ濁リヲ打ッタ「ジ」、「ツ」ニ濁リヲ打ッタ「ヅ」、「ス」ニ濁
リヲ打ッタ「ズ」、ソレカラ「カ」ト「クワ」是等ノ別ヲ廢シテ皆混同シテ仕舞ッタ
リマス、所ガ「チ」ニ濁リヲ打ッタ「ヂ」、「シ」ニ濁リヲ打ッタ「ジ」ト云フヤウナ
モノハ是ハ全ク反對ノコトヲシテ居ル、ナゼナラバ「ジ」ト云フ音ハ薩摩、
日薩隅、竝ニ九州ノ一部ニアルケレドモ他ニハ餘リハッキリトハ聽エナイ言
葉デアル、ソレニ拘ラズ皆此「シ」ニ濁リヲ打ッタ「ジ」ニ直シタ、我ミガ使フハ
大概「ヂ」ト云フ音ヲ使ツテ居ル、ソレニ拘ラズ「ジ」ト云フコトニシタ、ソレカ
ラ「ズ」ニシテモ水ノ「ミヅ」ト物ヲ見ナイトキノ「ミズ」トハハキリ分ッテ居
ル、九州竝ニ四國アタリハハキリ分ッテ居ル、ソレモ皆一ツニシテ仕舞ッタ、
「カ」ト「クワ」ノ如キハ全國殆ド東京ヲ中心トシテ或ル一部ノ東國ヲ除クノ外
ハ皆分ッテ居ル、奥羽ニ於テモ、九州ニ於テモ分ッテ居ル、四國中國皆分ッテ
居ルニ拘ラズ之ヲ一緒ニシテ皆「カ」ニ改メタ、斯ノ如キコトヲシテ此當初ノ
目的、即チ教授ヲ容易ニスルコトガ出來ルヤ否ヤ、若シ之ヲ以テ教授ヲ容易
ニスルコトガ出來ルト云フナラバ、マダシモデアルケレドモ、決シテ出來ハ
シマスマイ、例ヘバ九州、或ハ日薩隅ノ方ノ人ハ「フジノマ」ト「フヂノハ
ナ」トチャント分ケル、所ガ此子供ニ向ツテ「ジ」ト「ヂ」ト分ケテ居ルノヲ無
理ニ皆「シ」ノ字ニ濁リヲ打ッタモノニスル、是ニ於テ一ツノ困難ガアル、「ズ」
ト「ヅ」モ同ジコト、困難ガアルノミナラズ、今ノ所デ尋常小學ダケハ之ヲ使
テ高等小學ニ至ルト云フト復タ其正シイ假名ニ直スト云フコトヲ言ツテ居ル、
ソレダカラ一度、嘘ノコトヲ強ヒテ教ヘテ、ソレカラ今度復タ正シイモノニ
直ス、事ノ非常ニ容易ナラザルノミナラズ之ガ爲ニ生徒ノ信用ヲ失ツテ仕舞
フト云フコトニナリ、誰モ教育ノ事ハ貴バヌヤウニナツテ仕舞ノノデアル、
是ハ決シテ其教育者等ノ望ンデ居ル所ノ教授ヲ容易ニスルト云フコトニハナ
リマセヌ、ノミナラズ決シテ之ヲ統一シテ行クト云フコトニハ尙更ナラナイ
皆棒引假名ニシタケレドモ棒引假名ニシテ置イテハ何分漢字音ノ言葉ト日本

語ノ區別ガ子供ニハ付カナ、付カヌカラ子供ハ間違フ、是ハ無理モナイ話
デ、子供ニ是ハ漢字音ノ語源デアルトカ、是ハ日本言葉デアルトカ、サウ云フ
コトガ分ル筈ノモノデハ無イカラシテ、ドウモ段々困ッテ來タ、トウ〜〜此
棒引假名ヲ廢スルト云フコトヲヤツタノデアル、棒引假名ヲ廢シテ如何ニス
モ、ソレハ決シテ行カナイコトデアル、ドウ云フ風ニシタカト云フト、即チ
棒引ノ棒ノ代リニ「アイウ」ノ三字ヲ使ツテ「エイ」「オウ」ト云フヤウニシテ棒
ヲ止メテ仕舞ツテ、ソレデ統一ガ出來ル、斯ウ云フ御考デアル、ソレカラ又例
ヘバ「ハヒフヘホ」ノ音ガ第二音以下ニ來タトキハ「ワイウエオ」ニ改メタ、例
ヘバ「オモヒ」ト書イテ「思ヒ」「思フ」ト我ミハ思ツテ居ッタガ、ソレガ「オモイ」
トナツテ、物ガ重イノト人ノ思ヒト云フコトトノ區別ガ付カヌヤウニシテ仕
舞ッタ、斯ウ云フ趣向デアルト兎モ角モ統一ガ出來ル、統一ガ出來テ、ソレカ
ラ書クコトハ同ジデ澤山ナモノニ通用スルカラ、是ハ容易デアル、斯ウ云フ
風ニ考ヘタノデアル、其例ヲ申シテ見ルト例ヘバ「オウ」ト書イテ其一ト綴リ
デ「アウ」「アフ」「アヲ」「オウ」「オフ」ト云フヤウニ段々ヤツテ見ルト、今マデ十
五ダケ書分ケタモノヲ「オウ」ノ一ツデ書イテ仕舞フ、斯ウ云フコトニナルノ
デアリマス、國語音デ十五、字音デ五ツアリマス、皆デ二十ダケノ場合ヲ唯
「オウ」ノ字ニ含マシテ仕舞フ、又「コウ」ト云フ一ト綴リデ以テ國語ノ八ツ、字
音ノ四ツダケヲ含ム、成ルホド簡單ニナツタヤウデス、一ツデ以テ十二ニモ
十五ニモ二十二モ當ルカラ大變ニ書イタ上デ簡單デアルヤウデアルケレド
モ、併ナガラ是ハ同ジ言葉ノ中デ違ツタ意味ノモノヲ餘計含マヌレバ、同音
異義ノ言葉ガ益々殖エルト云フコトハ我ミガチヨツト考ヘテモ誰ニモ分ルコト
デアラウト思ヒマス、即チ其通リニ殖エテ來タ、ソレダカラ同音異義ノ言葉
ガ殖エレバ殖エルホド之ヲ理解スルコトガムヅカシクナル、故ニ書キ方ガ愈
單ニナレバ意味ハ益々複雜シテ來ルノデ、語ノ理會ハ益々困難ニナルト云
フノハ當然ノ問題デアル、併シ議論バカリデ申上ゲマスルヨリハ實地ノ例ヲ
御聽キニ入レタ方ガ御参考ニナラウト思ヒマスカラ、茲ニ此本ヲ持ツテ參リ
マシタ、即チ此本ハ國語調査會ノ委員長カラシテ昨年文部省ニ向ツテ答申書
ヲ出シマシテ、其答申書ヲ出スト共ニ國語調査會デ調ベタ方針ニ依ツテ是マ
デノ言葉ヲ改訂シタ語彙ヲ作レト云フコトデ、其注文ニ依ツテ文部省ノ圖書

課デ拵ヘタ本デアリマス、ソレニ依ヅテ見マスルト云フト實ニ同音異義ノモノノ非常ニ多イト云フコトガ忽チ分リマスデアリマス、私ハ時ヲ費ヤシマスカラ極僅カ申上ゲマスガ、斯ウ云フヤウナ譯デス、例ヘバ「イコウ」ト云フノハ著物ヲ掛ケル衣桁モ這入ッテ居ル、休ム所ノ憩フト云フ字モ這入ッテ居ル、人ノ死ンダ後ニ遺シタ遺稿、草稿デス、ソレモ這入ッテ居ル、ソレカラ御威光ト云フ威光モ這入ッテ居ル、ソレカラ「エライイサヲ」ト云フ威功モ這入ッテ居ル、是ダケ皆這入ッテ居ル、是ガ若シ從來ノ假名遣ニシタナラバ、衣ヲ掛けルノハ「イカウ」、休ムノハ「イコフ」、ソレカラ遺シタ草稿ハ「ヰカウ」、ソレカラ御威光ハ「ヰタワウ」デアル、エライ事ノ偉功ハ「ヰコウ」デアルト云フヤウニ、チャント書キ分ケノ出來ルモノノデアル、ソレガ其通り皆一緒ニナッテ仕舞ツテ居ル、例ヘバ「オウシ」ト云フ言葉ニシテモ「オウシ」ト書イテ物ヲ言ハナイ體者モ、ソレカラ物ノ多イト云フ「多シ」モ、ソレカラ天皇ノ軍ノ王師モ、ソレカラ或ハモウ一步進ンデ男ノ牛ノ牡牛モ皆一緒ニナッテ仕舞ツテ居ル、ソレカラ「カイチヨウ」ト書イテ、佛様ノ開帳モ、毎カノ會ノ會長モ是モ一緒ニナッテ居ル、ソレカラ例ヘバ「カビ」ト云フノハ誠ニ穢ナイ黴菌ノコトデアル、ソレカラ「タツビ」ト云フノハ、ハデヤカナ立派ナコトデアル、ソレモ兩方トモ一緒ニナッテ仕舞ツテ居ル、斯ノ如キ例ヲ舉ゲレバマダ澤山アリマスガ略シマシテ、茲ニ最モドウモ奇怪ナ例ガアル、例ヘバ「トウ」ト書イテ問答ノ答、即チ今マデ「タフ」ト書イタ答デス、ソレカラ「トフ」ト云フノハ問答ノ間ノ字ノ方デ聞ク方デアル、所ガ答ヘル方モ問フ方モ共ニ「トウ」ト云フコトニナッテ問ト答トハ一緒ニナッテ仕舞フト云フコトニナル、是ハ中ミ澤山ナモノデス、之ヲマア御参考ニ取ツテ御覽ニナッタラ私ガ茲デ千萬言費ヤヌヨリハ遙ニ御一覽ガ宜カラウト思フ、ソコデ此頃或人ガ雑誌ニ書イタ文章ガアル、私ノ拵ヘタ文章デハアリマセヌガ、斯ウ云フノデアリマス、コウリノコウリヤガ「コウリ」トヨンデ、コウリノコウリヲシテアルク

斯ウ云フノデアリマス、ドウデス諸君、御理解ガ出來マスカ、即チ是ガ今度ノ書キ方ダト斯ウ云フ風ニナル、ソレヲ私ガ從來ノヤウニ讀メバコウリノコホリヤガ「コホリ」トヨンデ、コホリノコウリヲシテアルク

是ナンデス、從來ノ通リニ書ケバ何デモナイコトデアル、是ハ決シテ私ガ拵

ヘタノデハナイ或ル雜誌ニアッタノヲ見出シテ斯ノ如ク御目ニ掛ケタノデアリマス、ソレデ是ハ、シカモ棒引論者ガ棒引ヲ主張スル爲ニ此文章ヲ出シタカラ、一度文部省ガ棒引假名ト云フモノヲ拵ヘタ爲ニ又紛雜ノ種ガ餘計ハ著物ヲ掛ケル衣桁モ這入ッテ居ル、休ム所ノ憩フト云フコトデ、棒引假名デ今度ノ人ノ死ンダ後ニ遺シタ遺稿、草稿デス、ソレモ這入ッテ居ル、ソレカラ御威光ト云フ威光モ這入ッテ居ル、ソレカラ「エライイサヲ」ト云フ威功モ這入ッテ居ル、是ダケ皆這入ッテ居ル、是ガ若シ從來ノ假名遣ニシタナラバ、衣ヲ掛けルノハ「イカウ」、休ムノハ「イコフ」、ソレカラ遺シタ草稿ハ「ヰカウ」、ソレカラ御威光ハ「ヰタワウ」デアル、エライ事ノ偉功ハ「ヰコウ」デアルト云フヤウニ、チャント書キ分ケノ出來ルモノノデアル、ソレガ其通り皆一緒ニナッテ仕舞ツテ居ル、例ヘバ「オウシ」ト云フ言葉ニシテモ「オウシ」ト書イテ物ヲ言ハナイ體者モ、ソレカラ物ノ多イト云フ「多シ」モ、ソレカラ天皇ノ軍ノ王師モ、ソレカラ或ハモウ一步進ンデ男ノ牛ノ牡牛モ皆一緒ニナッテ仕舞ツテ居ル、ソレカラ「カイチヨウ」ト書イテ、佛様ノ開帳モ、毎カノ會ノ會長モ是モ一緒ニナッテ居ル、ソレカラ例ヘバ「カビ」ト云フノハ誠ニ穢ナイ黴菌ノコトデアル、ソレカラ「タツビ」ト云フノハ、ハデヤカナ立派ナコトデアル、ソレモ兩方トモ一緒ニナッテ仕舞ツテ居ル、斯ノ如キ例ヲ舉ゲレバマダ澤山アリマスガ略シマシテ、茲ニ最モドウモ奇怪ナ例ガアル、例ヘバ「トウ」ト書イテ問答ノ答、即チ今マデ「タフ」ト書イタ答デス、ソレカラ「トフ」ト云フノハ問答ノ間ノ字ノ方デ聞ク方デアル、所ガ答ヘル方モ問フ方モ共ニ「トウ」ト云フコトニナッテ問ト答トハ一緒ニナッテ仕舞フト云フコトニナル、是ハ中ミ澤山ナモノデス、之ヲマア御参考ニ取ツテ御覽ニナッタラ私ガ茲デ千萬言費ヤヌヨリハ遙ニ御一覽ガ宜カラウト思フ、ソコデ此頃或人ガ雑誌ニ書イタ文章ガアル、私ノ拵ヘタ文章デハアリマセヌガ、斯ウ云フノデアリマス、コウリノコウリヤガ「コウリ」トヨンデ、コウリノコウリヲシテアルク

日本ノ國字、或ハ國語ト云フモノハ、ドウ云フヤウニ致サナケレバナラヌカト云フ問題ニ付キマシテモ、大體ニ於テハ其方針ヲ研究シ得タノデアリマス

即チ前ニ私ノ申上ゲマシタ所ノ國語調査會ノ僅ニ七八回ノ會、漢字全廢ト云フコトヲ決メタノガ即チ此事デアラウト思ヒマス、我ニハマダ今日マデハ果シテ此國語調査委員會ノ說ヲ文部大臣ガ採用シタカセヌカト云フコトハ知ラナカッタノデアルガ、此答デ見マスルト云フト文部省ハ即チソレヲ採用セラレタト云フコトヲ茲ニ明ニシタノデアリマス、如何デゴサイマセウ、此漢字ヲ全廢スルニ、漢字ヲ全廢シテ仕舞ツテ斯ノ如キモノヲ以テ之ニ代ヘルトシタナラバ、是ガ國語ヲ破壊スルモノデ無クテ外ニ何ガゴザイマセウ、先日ハ言、聊カ奇矯ニ涉ツタト云フ御嫌モアツカ知レマセヌガ、私ハ衷心ニ見様ハアリマセヌ、若シ此漢字ヲ廢シテ仕舞ツテ斯ノ如キモノヲ以テ之ニヨリ質問シタナラバ、是ガ國語ヲ破壊スルモノデ無クテ外ニ何ガゴザイマセウ、ベキモノデアラウト思フノデアル、文部大臣ハサウ云フ手段ヲ取ラレタヤ否ヤ、是ハキッパリト此次ニ御明答アラムコトヲ望ムノデアリマス、ソコデ文部省ハ又斯ウ云フコトヲ言ウテ居ル、今度拵ヘタ所ノ此假名遣ト云フモノハ唯

口語ニノミ用オルノデアル、口デ話ス言葉ニノミ用オルノデアル、シカモ之ヲ小學校ノ四年級クラヰニマデ用ヰテ、ソレカラ先キハ又文語ヲ教ヘル、斯ウ云

フコトヲ言ウテ居ルノデアル、ソコデ若シ之ヲ口語ニ用ヰルトスルナラバ、如何ナル標準ニ依ツテ此口語ヲ定メタカト云フコトガ是ガ大問題デアル、我ガ國民トシテハ先刻モ申ス如ク、第一ニハ憲法、議院法ヲ初トシテ諸般ノ法典法律、並ニ此立憲國ノ國民トシテハ貴衆兩院ノ帝國議會ノ議事ニ最モ重キヲ置カナシテハナラスト云フコトハ申スマデモナイコトデアリマス、ソコデ其帝國議會デ演説シタ所ノモノハ即チ速記録ニナッテ出マス、其速記録ノ書キ方ト云フモノハ矢張リ根據ガ有ルノデアリマス、決シテ漫然トヤッテハ居リマセヌ、明治二十二年ノ頃ニ高橋健三君ガタシカ官報局長ノ時デアリマシタ、其時ニ此假名遣ノ法ヲ定メマシテ一般ニ出シタコトガアリマス、其法ニ依ツテ今日モ此速記録ト云フモノハ出來テ居ルノデアリマス、其速記録ハ取モ直サズ、國民ノ最モ遵奉セニヤナラヌ大切ナルモノデアル、ソレト此度文部省デ拵ヘタル所ノ口語ノ書キ方トガ一致スルヤ否ヤト云フコトヲ私ハ茲デ一言申上げナケレバナラヌ、誠ニ近イ例ヲ一ツ茲デ申上グマス、ソレハ當年ノ三月六日ニ牧野文部大臣ガ此所デ：此演壇デ言ハレタ其言葉デ、速記デアリマス

馬屋原君ノ御尋ネニ御答イタシマス、郡制ヲ廢シマスニ付キマシテ、如何ナル影響ヲ學校ノ事業上ニ受ケルカ、差支ナイカト云フ御話デアリマシテ、此點ニ付キマシテハ當局ニ於キマシテ段々地方ノ情況ニ照シマシテ調査ヲ遂ゲタノデアリマス、今正確ノ數ヲ申上ゲルコトハ出來兼ネマスルガ、凡ソ郡立ノ學校ガ全國ニ九十有餘モアラウト考ヘマス、郡制ヲ廢シマシタ曉ニハ之ヲ如何ニ處置スルカト云フコトニ付キマシテハ、實地調査シ且ツ内務當局者ト打合セヨ致シテ居リマス次第デ、今日ノ所、現存イタシテ居る學校ハ大方存續シ得ル見込デアリマス、或ハ町村組合、或ハ縣ノ經濟ニ移シ、悉ク存續シ得ルヤ否ヤノ斷言ハ致シ兼ネマスケレドモ、教育上ニ差支ナイト認ムル點マデニハ存續ノ取扱ガ出來ル見込デゴザイマス、大體ニ於キマシテハ、郡制ヲ廢シマシテモ差支ナイ見込デゴザイマス

僅力は八十行ノ文デアリマス、デ其十行ノ中デ、シカモ十七箇所違ヒマス、今度文部省ノ假名遣ニナレバ此中デ十七箇所直サナケレバナラヌ所ガ出來ルト云フ話ニナリマス、デ斯様ナモノヲ我國民教育ニ強フルノデアル、習々タ所デ何モナラヌ、憲法モ議院法モ分ラヌ、此議會ノ速記録サヘモ當リ前ニイカヌト云フヤウナモノヲ國民教育ニ強フルノハ、如何ニモ殘酷ナ話デハナイカト思ヒマス、ソコデ斯ノ如ク致シマシテ若シ此統一ノ目的ヲ達シ得ラレ

ルナラバデアリマスガ、其ノ統一ノ目的ハ達セラレヌト云フノハ先刻申ス通リナリ、即チ高等小學ニ於テハ又文語ヲ習ツテ正シイ假名遣ヲ學ハナケレバナラヌ、加之中學ニ至ツテハ無論デゴザイマス、舊來ノ假名遣ヲ學バヌケレバナラスト云フコトハ、マルデ是ハ無駄コトデ：無駄コトヲサセラレルト申サナケレバナラヌ、ソコデ今日小學校ヲ卒業シテ、サウシテ中學校ニ至ツテ此假名遣ガ達フガ爲ニ泣イテ居ル生徒ハ全國何萬アルカ知レマセヌ、如何ニモドウモ殘酷至極デハゴザイマセヌカ、然ルニ文部省ハソレハ今ハサウデアル、今ハサウデアルガ今ニ是ハ其中學校ニマデ之ヲ用ヰルノデアルゾトスウ言ハレル、此中學校デ用ヰルト云フコトニナリマシタナラバ、ソレコソ大變ナ話デゴザイマセウ、デ試ニ此文部省デ出來マシタ語彙ニ照シテ見マスト、此語彙ハ大槻文彦ガ拵ヘマシタ即テ言海ノ中カラ一萬四百有餘語ト云フモノヲ採ツテ、其中デ七千ホド是ハ集メタモノデアリマス、ソレデ即チ此大槻ノ語彙ハ皆デ三萬五千語ホドアリマス、ソレデ三萬五千語ノ中デ一萬四百ナニガシト云フモノハ之ガ爲ニ變ヘラレルノデアリマス、即チ是ガ國語破壞デナクテ何デゴザイマセウカ、ソレデ併ナガラ、此問題ハ實ハマダ未定ニ：實行シツツアルケレドモマダ實行ハシテ居ラヌノデアリマス、濟フベキ時ハ今日デアリマス、今日ヲ措イテハ最早無イノデアリマス、曩ニ此棒引假名ヲ教ヘラレタ所ノ生徒ノ數ハ何程アルカト云フト、先ヅドウシテモ一千萬餘デゴザイマス、私ノ推測スル所ニ依レバ、即チ此明治三十七年マデハ報告ガアリマスルカラ實數ヲ述ベラレマスルガ、八九ノ二年ハ報告ガゴザリマセヌカラ推測ヨリ外アリマセヌガ、是ハ内輪ニ推測シテ見テ一千二百八十萬ホドノ人數ニナリマス、一千二百萬餘ノ生徒ニ教ヘタ其棒引假名ハ今日廢メルト云フ：是ハ廢メテ仕舞フ、サウシテ跡ヲ如何ニスルカ、併シ私ハ此遲シト雖モ今日廢ムルト云フコトニ氣ノ付カレタノハ誠ニ結構ダト思ヒマス、實ニ結構ダト思フカラシテ決シテ改ムルニ寄ナラズ廢メラレルコトハ誠ニ宜シイカラシテ是ハ大ニ賀スルノデアリマス、ガ併ナガラソレニ次グニ此改訂假名遣ヲ以テスルト云フコトニ至ツテハ是ハ怨スルコトハ出來ヌト存ジマス、此假名遣ト云フモノハ唯今私ガ申シタダケデモ諸君ノ御判断ハ思ヒ半バニ過ギルダラウト存ジマス、ケレドモ是ハ決シテ永ク續クモノデハ無イ、若シ行ッタ所ガ永ク續クモノデハ無イ、又サウスルト數千萬ノ生徒ヲ誤ルト云フコトニナル、デ如何ニモドウモ殘酷至極ト私ハ申サヌケレバナラヌ、折角此棒引假名ヲ

改メラレルノハ結構デアルケレドモ、又ソレニ代フルニ之ヲ以テスルト云フニ至ッテハ如何ニモ是ハ堪ヘ忍ブコトデナイト思ヒマス、デドウカ断然此方針ヲ改メマシテ、サウシテ其今日ノ國民ニ適當ナル所ノ假名遣ニスルト云フコトニ出デラレムコトヲ切ニ希望スルノデアリマス、デ斯クシテコソ初メテ國家教育ノ本旨ニ適ツテ來ルコトト申シテ宜カラウト存ゼラレマス、デ第三段ニ移リマス、成ルホド先刻來申シタ通リ此國語假名遣ト云フモノハ高等教育會議ノ可決ハ多數ニハ違ヒナイ、高等教育會議ノ決ヲ經タカラシテ今度ハ最早行フヨリ外ナイト申サスケレバナラヌ、デ之ヲ行フノハドウシテ行フカト云フト、御承知ノ通リ文部省ハ國定教科書ヲ出版スルコトノ職權ヲ持ッテ居リマス、ダカラシテ國定教科書ヘ持ッテ行ッテカラニ此通リ書イテヤレバ來年ノ四月カラシテ是ハ行ハレルノデアリマス、此先キ何所デモ之ヲ廢ムルコトハ出來ナイ、ト云フ有様ニナッテ來ル、布告モ要ラナイ、ト今日デハ布告モ要ラナイ、省令モ要ラナイ、勅令モ要ラナイ、何モ要ラナイ、唯其自分ノ方デ出ス國定教科書ニ此通り書イテ、サウシテ是デ强行シテ行キサヘスレバ出來得ルノデアル、實ニ危險至極ト申サナケレバナラヌ、ガ併シ此所デ一ツ諸君ノ御聽キニ入レテ置カナケレバナラヌコトハ、高等教育會議ノ決ヲ經タト云フガ、其決ハ如何ナル有様デアッタカト云フコトコソ、是ハ諸君ノ御参考ニナラウト思ヒマス、デ本員ノ承リマスル所ニ依リマスルト、高等教育會議ニ於テハ多數ヲ以テハ決セラレタケレドモ、併ナガラ有力ナル人ノ反對ガアッタト云フコトヲ聞イテ居リマス、其有力ナル人ト云フノハ如何ナル人デアルカト云フ、義ニ文部次官ノ職ヲ奉ゼラレタ二人ノ方デアリマス、即チ本院ニ議席ヲ占メラレテ居ラル二人ノ方ハ、大ニ反對セラレタト云フコトニ承ッテ居リマス、而シテ實行ノ局ニ當タ梅君ハ私ノ先キニ讀ンダ如キ意見ヲ公表シテ居リマス、ソレデソレノミナラズ或ハ自分ノ間誤リカハ存ジマセヌガ、確カダト思ヒマス、現普通學務局長モ反對ノ意見ヲ述ベタト云フコトモ聞イテ居リマス、ソレデ此可決トハ申スモノノ斯ノ如キ有力ノ反對ノアッタト云フコトハ、即チ此案ニ於テ大ニ不穩當ナルコトガアルト云フコトヲ證明シテ餘リアルト思ハレスル、デ斯ノ如キ有様ニ拘ラズ文部大臣ハ之ヲ斷行サレル考デアルヤウデアル、斯ノ如キ議決デアッテモ議決ハ議決ダカラ實行サレルト云ヘバソレ迄デアル、併シ是ハ文部大臣ハ大ニ反省セヌナラヌコトト存ジマス、大ニ反省セラレテ斷然其非ヲ改メラルルノガ誠ニ國家ノ爲ニ慶スベキコトデアリマス、茲ニ

諸君ノ御許ヲ得マシテ先進國ノ例ヲチヨット御聽キニ入レタイト存ジマス、固ヨリ是ハ御参考マデノコトデ引證スルト云フ次第デハゴザイマセヌガ、御承知ノ通リ彼ノ先進國ニ於テモ此假名遣ノ問題、「スペルリング」ノ問題ハ屢々問題ニナツテ居ル、先年ハ獨逸ニ於テ問題ニナリ、其後ニ佛蘭西ニ於テモ問題ニナリマシタ、佛蘭西ノハコンナ大膽ナモノデハナイ、僅ノ改正ヲシャウト思ツテ調査案ガ出來マシタ、ソレヲ「アカデミー フランシエ」、即チ佛蘭西ノ學士院ニ持出シタ、學士院デ非常ナル反對ヲ受ケテ是ガ消滅シマシタノデアリマス、最モ近イ例ハ亞米利加ニアリマス、即チ是ハ昨年ノ十二月十三日ノコトデアリマス、ソレハドウ云フコトデアルカト云フト、英國ニ有名ナル言語學者ノヘンリー・スウヰートト云フ、人ガアリマシテ、ヘンリー・スウヰートト云フ人ガ千八百八十一年ニ英語ノ綴リ方ヲ改メラルルコトニ就イテ一ツノ意見ヲ發表シマシテ、今ヨリ二十五六年前ヨリ歐米ノ學者ガ餘ホド能ク研究セラレタノデアリマス、ソレヲ亞米利加ニ於テ採用スルガ宜カラウト云フコトニナリマシタノハ、數年前カラ「シンプリファイド スペリンギボード」簡易綴字局トデモ言ツタラ宣シイカ、サウ云フモノヲ拵ヘマシテカーネギーナドト云フ豪富ヲ始トシテ大ニ寄附金ヲ致シテ段々調査シタノデゴザイマス、調査シタ結果、大統領ノルースヴェルトモ之ヲ贊成シマシテルースヴェルトガ大統領ノ力ヲ以テ實行シヤウト云フコトヲ企ツタノデアリマス、ソレデ其第ニニ昨年ノ夏頃ニ亞米利加ノ官報局長ニ命令ヲシマシテ、總テ此官報局ヨリ出ル所ノ文書ト云フモノハ皆此綴リニ據レト云フコトヲ決メタノデアリマス、ソレデ官報局長ハ其通り實行イタシマシタ所ガ、第一ニ反對ノ出タノハラル二人ノ方ハ、大ニ反對セラレタト云フコトニ承ッテ居リマス、而シテ實行ノ局ニ當タ梅君ハ私ノ先キニ讀ンダ如キ意見ヲ公表シテ居リマス、ソレス、ソレデ官報局長ハ其通り實行イタシマシタ所ガ、國會議員ヨリ非常ノ反對ガ出マシタ、司法部カラ出マシタ、即チ「シユーブリム コート」、高等法院ニ於テ決シテ是ハ用ヰルコトハナラスト云フコトヲ決定シタノデアリマス、昨年ノ十二月ニナリマシテ國會ヲ召集シマシタ所ガ、國會議員ヨリ非常ノ反對ガ出マシタ、ソレデトウ一昨年ノ十二月十三日ニ至ツテ大統領モ已ムヲ得ズシテ其命令ヲ撤回シタノデアリマス、命令ヲ撤回シテサウシテ總テ此官報局ヨリ出ル所ノ官文書ハ皆從來ノ綴リニスルト云フコトニ決定シタノデアリマス、此案ノ如キハ而モ有名ナル言語學者ノヘンリー・スウヰートノ立案デアル、又其外ニ有名ナル學者タチガ澤山贊成ヲシテ、數年ノ間研究ニ研究ヲ重ネ、サウシテ出シタノデアル、其言葉ノ數モ幾ラデアルカト言フト僅ニ三百語、三百語デアルケレドモ三百語ノ中ノ半分ダケト云フモノハ最早世ノ中デ大概モウ用ヰ

來リツタル所ノ言葉デアリマス、ソレニモ拘ラズ唯今申シタ如キ結果ニナッテ、トウ／＼是ハ行ハレヌト云フコトニナッタノデアリマス、是マデ世界先進

國ニ於テモ澤山斯ノ如キ例ハアルニモ拘ラズ成立タナイ、斯ウ云フコトニモ拘ラズ文部大臣ハ之ヲ實行セラレル考デアルヤ否ヤ、若シ之ヲ實行セラルルトシタナラバ恐ラク是ハ文明國ニ於テハ世界無比デアラウト思フ、強ヒテ其例ヲ求メタナラバ支那ノ秦ノ始皇帝ガ書ヲ焚キ儒ヲ坑ニシタヨリ外ニハ無カラウカト思ヒマス、斯ノ如キモノデアルニモ拘ラズ、文部大臣ハ之ヲ實行セラルル考デアルヤ否ヤ、ドウゾ明確ニ御答辯アラムコトヲ望ミマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ本日ノ議事日程ニ移リマス、議事日程第一、男爵藤村紫朗君請暇ノ件、是ハ病氣ニ付イテ本日ヨリ十日間ノ請暇デゴザイマス、許可イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○伯爵正親町實正君 此際議事日程ヲ追加サレマシテ、明治三十九年度歳入歳出追加豫算案ノ審査期限ヲ定ムル件ノ會議ヲ開カレムコトヲ希望シマス

○子爵曾我祐準君 贊成

○子爵谷干城君 贊成

○議長(公爵徳川家達君) 正親町伯爵ノ議事日程追加ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○伯爵正親町實正君 此際議事日程ヲ追加サレマシテ、明治三十九年度歳入歳出追加豫算案ノ審査期限ヲ定ムル件ノ會議ヲ開カレムコトヲ希望シマス

(第三號) 明治三十九年度歳入歳出總豫算追加案
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治四十年三月九日

衆議院議長 杉田 定一

○貴族院議長公爵徳川家達殿
○伯爵正親町實正君 此追加豫算ノ審査期限ハ本日ヨリ三日間ト致シタイト

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔左ノ通牒文ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、故ニ議事日程ハ追加サレマシタ

〔伯爵清樓家教君演壇ニ登ル〕

貴族院議長公爵徳川家達殿

右特別委員長
伯爵清樓家教

○伯爵清樓家教君 此海港検疫法中改正法律案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ申上ゲマス、此委員會ハ兩度開キマシテ政府委員ノ辯明ヲ求メマシタシ、且又法制局長官ノ出席ヲ求メマシテ、是又種々質問ヲシタ次第ゴザイマス、此改正案ヲ政府が提出サレマシタノハ理由書ニゴザイマスカラ、皆サンガ御承知ノコトト存ジマスルガ、近來恐ルベキ「ペスト」病ガ各地ニ流行イタスニ付キマシテ此海港検疫法中ニ於キマシテ缺クル所ガアリマスルガ爲ニ、此度此改正法律案ヲ提出サレタノデゴザイマス、付キマシテハ委員會ニ於キマシテ種々調査ヲ致シマシタガ、今日ノ此流行病ノ際ニ於キマシテハ此改正案ハ相當ナルモノト認メマシテ、可決スベキモノト議了イタシタ次第ゴザイマス、

考ヘマス

○男爵中川興長君 贊成

○議長(公爵徳川家達君) 正親町伯爵ノ審査期限ヲ三日間トスルト云フ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○伯爵正親町實正君 是ヨリ豫算會議ヲ開キタイト思ヒマスカラ、退席ヲ

○議長(公爵徳川家達君) 正親町伯爵ノ豫算會議ヲ開キタイト云フ要求ニ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 正親町伯爵ノ審査期限ヲ三日間トスルト云フ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

委員會ニ於キマシテハ何等ノ異議モ無ク全會一致ヲ以チマシテ可決スベキモノト決シマシテゴザイマス、ドウカ皆サンニ於キマシテモ御賛成アラムコトヲ希望イタシマス、尙ホ斯ノ如キ簡単ナル法律案デゴザイマスカラ、ドウカ讀會ヲ省略セラレマシテ議了アラムコトヲ望ミマス

○黒岡帶刀君 讀會省略贊成

○子爵板倉勝達君 贊成

○伯爵大原重朝君 贊成

○子爵高野宗順君 贊成

○伯爵廣澤金次郎君 贊成

○伯爵柳原義光君 贊成ヲ致シマス

○子爵野宮定毅君 贊成

○男爵野村素介君 贊成

○男爵石黒忠惠君 贊成

○男爵前島密君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 清棲伯爵ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ贊成者ガ

アツタト認メマス、讀會省略ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第三、癩豫防ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告
癩豫防ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也
明治四十年三月五日

右特別委員長

伯爵廣澤金次郎

貴族院議長公爵德川家達殿
〔伯爵廣澤金次郎君演壇ニ登ル〕

○伯爵廣澤金次郎君 唯今議題ニ上リマシタ癩病豫防ニ關スル法律案ノ特別委員會ノ經過竝ニ結果ヲ御報告ニ及ビマス、本案ノ委員會ハ去ヌル五日ニ開キマシテ、委員長及副委員長ノ互選ヲ結了シマシテ引續キ委員會ヲ開キマス、諸君ノ御手許ニ回シテアリマスル報告通リ原案可決トナッタ次第デアリマス、委員會ニ於キマシテハ政府委員ノ委シキ説明モアリマシタシ、又委員諸君ヨリ質問モ出マシテ、之ニ對スル政府ノ説明モアリマスルガ、是等ノ詳細ノ點ニ至リマシテハ速記錄ガゴザイマスカラ、速記錄ニ讓リマシテ本員ハ唯此大體ダケ申上ゲヤウカト考ヘマス、本案ノ提出サレタ理由ハ抑、癩病ト云フモノハ遺傳病ト云フコトニナッテ居リマシタガ、今日デハ歐羅巴ニ於テモ醫者ノ仲間ノ說モ一致シマシテ、傳染病ト云フコトニナリマシタ、併ナガラ其傳染ガ他ノ虎列刺トカ若クハ「ペスト」ノ如ク傳播スルノガ猛烈デアリマセヌニ依ツテ今日マデ是ノ豫防ノ案モ無カッタガ、併ナガラ癩病ナルモノハ最モ恐ルベク忌ムベキ病氣デ、傳染病ニハ違ヒナイト云フコトニナリマシテ、是ガ豫防ヲスルハ必要ト云フコトデ本案ヲ提出サレタ次第デアリマス、デ此癩病患者ニハ固ヨリ貧者モアリ又相當ノ資産ヲ持ッテ居ル者モアリマスガ、本案ノ目的トスル所ハ、政府ノ説明ニ依ルト、神社佛閣ニ浮浪徘徊スル者ヲ收容シテ傳染ヲ防グト云フノガ目的デアルヤウニ政府ノ説明デアリマシタ、デ政府ノ方ノ三十九年度ノ調査ニ依リマスルト全國ノ癩患者ガ三萬人クラヰダサウデ、其中一定ノ居所ガ無い患者ガ、チヨット千二百人ホドニナリマシテ、其他ニ居所ヲ有シマシテモ是ノ療養ノ資力ノ無キ者ガアリマス、是等ヲ合セマスルト、チヨット、二千人ホド全國ヲ通ジテ、此法律案ガ通リマスルト公費ヲ以テ相當ノ救助ヲシナケレバナラヌ者ガアルノデアリマス、ソレデ本案ガ通過シマスルト此經費ノ點ニ於テ政府ノ説明ヲ求メマシタカラ、其點ダケヲ申上ゲテ置キマス、前申ス如ク本案ノ第一ノ目的トスル所ハ貧者即チ公費ヲ以テ救助スベキ癩病者ト云フモノハ全國ヲ通ジテ先ヅ二千人ナラバ十分ノ見込ナル、此二千人ヲ沖繩縣ヲ除キマシテ、全國七箇所ニ收容所ヲ設ケマシテ此七箇所ニ收容スルト云フ政府ノ計畫デアリマス、其一箇所ノ新營費ガ三萬三千圓ト見積ツテアリマスカラ、全國ヲ通ジマスルト新營ニ要シマスル費用ガ丁度二十三三萬圓バカリニナリマス、此二十三三萬圓ノ新營費ハ國庫ニ於キマシテ二分ノ一ヲ負擔シ、アトノ二分ノ一ハ各地方ノ負擔トスルノデアリマス、デ沖繩縣ニハ別ニ一箇所ヲ設ケルノデアリマス、此一箇所ハ三千圓バカリデ、先

三十人クラ井收容スルコトノ出來ル收容所ヲ設ケマス、此沖繩縣ノハ全部國庫ノ負擔トナルノデアリマス、ソレカラ此新營費デアリマセヌデ維持費、即チ經常費ハ府縣ヲ通ジマシテ全國收容所ノ經費ガ二十一萬圓ホドニナルノデアリマス、サウシテ其中六分ノ一、即チ三萬五千圓ホドヲ國庫ノ負擔ニシマシテ、アトハ府縣ノ負擔ニナルノデアリマス、ソレカラ沖繩縣ノ分ガ四千圓デ、是ハタシカ本員ノ記憶スル所デハ全部國庫ノ負擔トナルヤウデアリマス、ソレデチョット申上ゲテ置キマスガ、熊本縣ノ如キハ他所カラノ風來者ト申シマセウカ、原籍ヲ有セザル者ガ澤山居ル爲ニ熊本縣ノ如キハ癩病患者ガ多イト云フコトデアリマスガ、此本案ガ通過シマシテモ戸籍不明ナル患者ノ費用ハ假令熊本縣ニ收容所ガアリマシテモ其收容所ニ收容シマスル患者ノ中ノ戸籍不明ノ者ハ是ハ國庫ニ於テ經費ノ二分ノ一ヲ負擔スルト云フコトニナルノデアリマス、斯ノ如キ案デアリマシテ質問ハ隨分アリマシタガ、修正ノ意見ハ別ニ委員諸君カラ一モ出マセヌ、唯申上ゲテ置キマスノハ委員中ニ二三人ノ諸君ヨリ希望ガアリマシタ、其希望ハ第一ハ此癩病者ト云フ者ハ殊ニ貧者ニ於キマシテハ神社佛閣ニ出掛ケルノハーツハ神ニ信心シテ少シデモ自分ノ病氣ヲ癒サウト云フ目的ガアル、故ニ一方ニ於テハ患者ノ安心ヲ圖リ、一方シテモ相當ノ信仰上ノ設備ヲスルカ、若クハ相當ノ地所ヲ限ッテ神社佛閣ニモ參詣スルコトノ出來ルヤウニスレバ、之ニ越シタコトハ無イト云フ希望ガアリマシタ、又モウ一ツハ收容所ノ設備ニ就キマシテ殆ド不治ノ病氣デゴザイマスカラ、此不治ノ患者ヲ收容スル以上ハ、成ルベク患者ノ満足スルヤウナ設備ニシテヤッタラ宜カラウト云フコトノ、マアニ三ノ希望ガアリマシタガ、別ニ修正ノ意見モ出マセヌデ政府原案ノ通り可決シタノデアリマス、ドウゾ諸君ニ於カレマシテモ、委員會ノ決議通り御賛成アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 別ニ御議論モゴザイマセヌヤウデゴザイマスカラ、採決ヲ致シマス

○伯爵廣澤金次郎君 別ニ御修正ノ意見モアリマセヌヤウデアリマスカラ、讀會省略シテ直ニ確定議ニ移ラレムコトヲ希望イタシマス

○男爵金子有卿君 読會省略ニ贊成

○子爵梅小路定行君 贊成

○男爵本多副元君 贊成

○伯爵萬里小路通房君 贊成

○侯爵池田詮政君 贊成

○男爵赤松則良君 贊成

○伯爵柳原義光君 贊成

○男爵石黒忠惠君 贊成

○子爵松平容大君 贊成

〔其他〕贊成ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 廣澤伯爵ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ贊成者ガゴザイマシタト認メマス、讀會省略ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案御異存ゴザイマスカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第四、韓國森林特別會計法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告

韓國森林特別會計法案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治四十年三月九日

右特別委員長

伯爵正親町實正

〔中島永元君演壇ニ登ル〕

貴族院議長公爵德川家達殿

○中島永元君 此法律案ノ委員長ハ正親町伯爵デアリマスガ、今豫算委員會ニ出席ニナリマシテ御差支デゴザイマス、私ヨリ代々テ本案ノ委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告イタシマス、此委員會ハ一昨九日ニ一回開キマシテ、段々政府委員ニ就キマシテ質問モ出マシタシ、種々審查ヲ致シマシタ結果、遂ニ原案ノ通りニ可決スベキモノデアルト云フコトデゴザイマス、此案ノ提出ニナリマシタ趣意ハ、御承知ノ通り昨年十月ニ日韓兩國ノ間ニ森林經營ニ關スル共同約款ト云フモノガ締結ニナリマシタ、ソレニ基イテ此兩國政府間デ事

業ニ著手スルコトニナリマシテ斯ウ云フ法律案ガ提出ニナツタ譯デアリマス、
段々取調べテ見マスルニ、隨分此韓國ノ鵠綠江豆滿江ノ森林ト云フモノハ中
ミ廣大ナモノデアリマシテ、樹木モ多シ又種類モ多イシ、數百年殆ドウチ
ヤツテアッタ云フ譯デ、中ミ森林ニハ樹木ガ富ンデ居リマス、ソレデ此森林
ヨリ伐木ヲスル方法、又ハ收支ノ豫算等モ段々取調べテ見マシタ所ガ、隨分有
望ナ事業デアリマシテ、決シテ損失等ハ無イヤウニ認メマシテゴザイマス、
併ナガラ最初一二年ノ間ハ設備其外ノ爲ニ或ハ收入ハ無イカモ知レヌト云フ

コトデアリマスケレドモ、三年頃グラヰカラハ必ズ相當ノ收益ガ有ルト云フ
コトデアリマス、委員會ニ於テハ、是ハ損失等モ無イ事業ト認メマシテ一ノ
異見モ無ク本案ハ可決スペキモノト決定イタシマシテゴザイマス、此段御報
告ヲ致シマス、此法律案ハ四箇條ヨリ成立イタシテ居リマスケレドモ、事柄
ハ單純ナモノデ、且ツ明瞭デアリマス、又此法案ガ通過イタシマスレバ政府
ヨリ追加豫算ヲ提出ニナルサウデアリマス、隨分急イデ居リマスカラ、願ハ
クバ讀會ヲ省略シテ直ニ議決アラムコトヲ希望イタシマス、序デナガラ此動
議ヲ提出イタシマス、御贊成コ願ヒマス

○松本鼎君 讀會省略ニ贊成

○湯地定基君 贊成

○伊澤修二君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 伊澤君ハ何デスカ

○伊澤修二君 讀會省略ニ贊成イタシマス

○男爵本多政以君 贊成

○男爵淺野守夫君 贊成

○田中芳男君 贊成

○子爵鍋島直柔君 贊成

○富井政章君 贊成

〔其他〕贊成ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 中島君ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ贊成者ガアツ
タト認メマス、讀會省略ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案御異存ナイト見テ
宜シウゴザイマスカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ」

○議長(公爵德川家達君) 御異存ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第五、印紙稅法中改正法案、衆議院提出、
第一讀會、通牒文ノ朗讀ハ省略シテ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(公爵德川家達君) 「左ノ通牒文及議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス以下之
ニ徴フ」

印紙稅法中改正法律案
右本院提出案及送付候也

明治四十年三月二日

衆議院議長 杉田 定一

貴族院議長公爵德川家達殿

印紙稅法中左ノ通改正ス

第三條 約束手形ニ關シテハ一通毎ニ其ノ記載金高ニ應シ左ノ印紙稅ヲ納
ムヘシ

金高千圓以下ノモノ 印紙稅 五 錢

金高五千圓以下ノモノ 印紙稅 十 錢

金高一萬圓以下ノモノ 印紙稅 二十錢

金高二萬圓以下ノモノ 印紙稅 五十錢

金高三萬圓以下ノモノ 印紙稅 一 圓

金高五萬圓以下ノモノ 印紙稅 二 圓

金高十萬圓以下ノモノ 印紙稅 四 圓

金高二十萬圓ヲ超ルモノ 印紙稅 七 圓

第四條中「一 約束手形 印紙稅二錢」ヲ削ル

附 則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
非常特別稅法中約束手形及小切手ノ印紙稅ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨ
リ之ヲ廢止ス

○議長（公爵徳川家達君）別ニ御質問モゴザイマセヌカラ、次ノ議事日程ニ及
移リマス

○議長（公爵徳川家達君）議事日程第六、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委
員ノ選舉、特別委員ノ選定ハ議長ガ致シテ御異存ゴザイマセヌカ

○議長（公爵徳川家達君）御異議ナイト認メマス、直ニ其委員ヲ指名イタシ
マス、書記官長ヲシテ朗讀イタサセマス

〔太田書記官長朗讀〕

印紙稅法中改正法律案特別委員

伯爵柳原義光君 子爵前田利定君 男爵小澤武雄君
男爵徳川厚君 武井守正君 柴田家門君
室田義文君 小栗富治郎君 下郷傳平君

○議長（公爵徳川家達君）議事日程第七ニ移リマス、關稅定率法輸入稅表中
改正法律案、衆議院提出、第一讀會

關稅定率法輸入稅表中改正法律案

右本院提出案及送付候也

明治四十年三月二日

衆議院議長 杉田定一

貴族院議長公爵徳川家達殿

關稅定率法輸入稅表中左ノ通改正ス

二三 棉子 同 ○、一〇

附則

本法ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○議長（公爵徳川家達君）別ニ御質問モ無イヤウデゴザイマスカラ、次ノ議
事日程ニ移リマス

○議長（公爵徳川家達君）議事日程第八、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委
員ノ選舉、此特別委員ノ選定モ議長ガ致シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長（公爵徳川家達君）御異議ナイト認メマス、直ニ其氏名ヲ御報告ニ及
ビマス

〔太田書記官長朗讀〕

關稅定率法輸入稅表中改正法律案特別委員

伯爵柳澤保惠君 子爵山口弘達君 田邊輝實君
男爵本多元君 男爵長松篤棐君 馬屋原彰君
關清英君 橋本雄造君 烏越貞敏君

○議長（公爵徳川家達君）議事日程第九ニ移リマス、戸籍法中改正法律案、
衆議院提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

戸籍法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治四十年三月六日

右特別委員長

侯爵細川護成

〔富井政章君演壇ニ登ル〕

○富井政章君 今日ハ委員長ガ御差支デアリマスカラ、私ヨリ簡単ニ委員會
ノ經過並ニ結果ヲ御報告イタシマス、委員會ハ去ル六日デアツタト思ヒマス、
一度開カレマシテ二三意見ノ陳述ガアツタ後ニ可決スルコトニナリマシタ、
此案ハ衆議院ノ提出案デアリマシテ、初メハ數箇條ヨリ成立ツテ居リマシタ、
然ルニ衆議院ノ委員會ニ於テハ政府委員ノ意見モアツテ大抵皆削除セラレマ
シテ此一箇條ダケ残ツテ本院ニ回ッテ來タノデアリマス、此改正ハドウ云フコ
トデアルカト申スニ、或ル間違ヨリシテ本籍ヲ持ツテ居ナイ者ガアル、何所ニ
モ本籍ヲ持ツテ居ナイ者ガアル、或ハ之ニ反シテ複本籍ト申シテ本籍ヲ二箇

所ニ持ツテ居ル者ガアル、斯ウ云フ場合ニハ戸籍ヲ直サヌラヌノデアリマ
ス、ドウシテ直スカト云フニ就籍ニ何所ニモ本籍ヲ持ツテ居ナイ者ハ就籍
ノ届出ヲ爲スコトガ必要デアル、又籍ヲニツ持ツテ居ル者ハ除籍ノ届出ヲ爲
サネバナラヌ、是等ノ届出ハ誰ガスルカト申スニ、戸籍法第二百條ニ依レバ
戸主ガ裁判所ノ許可ヲ得テ爲スコトニナツテ居ル、然ルニ戸主ハ徒ニ怠ツテ或
ハ利害ノ關係等ヨリシテ其届出ヲ爲サナイコトガアル、斯ル場合ニハ其一ツ

モ籍ヲ持ッテ居ナイ者、又ハ二重ニ籍ヲ持ッテ居ル者ハ戸籍ノ訂正ナキ爲ニ甚
ダ迷惑ヲ被ムル譯デアリマス、此場合ニハ戸主ヲ相手取ッテ訴ヲ起スヨリ仕方
ガ無カラウト思ヒマス、然ルニソレハ甚ダ手數デアル、至ッテ簡単ナ事柄ノ
爲ニ裁判所ニ起訴シテ裁判ヲ仰グト云フコトハ如何ニモ煩ニ過ギタコトデア
ル、ソレ故ニ此案ハ斯ル場合ニハ其當事者、即チ籍ヲ一つモ持ッテ居ナイ者、
又ハ二重ニ籍ヲ持ッテ居ル者ヨリ戸主ニ依ラズシテ自分ガ直ニ裁判所ノ許可
ヲ得テ戸籍吏ニ届出ヲ爲スコトヲ得ルコトニシタイト云フ修正デアリマス、
誠ニ便宜ナ改正デアルト思ヒマシテ、委員會ニ於テハ一人ノ反対モ無ク可決
スルコトニナツタノデアリマス、唯斯ク決スルニ付イテハ一ノ希望ヲ述ベル
人ガアツテ、遂ニ其意見ハ委員會ニ於テ暗黙ニ承認セラルコトニナツタノ
デアリマス、ソレハドウ云フコトデアルカト申スニ、此修正ノ如キハ實質上
ヨリ言ヘバ誠ニ穩當ナ修正デアリマス、併ナガラスノ如キ小サナ缺點ニ氣ガ
付ク毎ニ一々單行法ヲ設ケテ現行法ニ改正ヲ加ヘルト云フコトハ甚ダ煩ハシ
イコトデアツテ、國民一般ニ是等ノ小サナ單行法ヲ皆知ッテ居ラケレバナラ
ヌト云フコトニナツテ甚ダ不便デアル、ソレ故ニドウカスノ如キ小サナ改正
ハ一ト纏メニシテ一ツノ單行法デ實行スルト云フコトニナリタイト思フノデ
アリマス、戸籍法ニハ澤山缺點ガアルノデアリマス、官報ヲ御覽ニナツテモ
各地ノ戸籍吏ヨリ始終司法當局者ニ伺ガ出テ居ル、多クノ事柄ニ付イテ司法
省ハ指令ヲナシテ戸籍法ノ解釋ヲ明ニスルコトニナツテ居リマス、ソレ故ニ戸
籍法ニハ澤山ナ不備缺點ガアツテ早晚改正ヲ要スルコトデアルト信ジマス、幸
ニ目下司法省ニ於テハ民事ニ關スル法律取調委員ナドモ置カレテ居ツテ、競
賣法ナドニ就イテハ折角調査ヲ爲シツツアルト云フコトデアリマス、戸籍法
ニ就イテモ同一ノ調査ヲ爲ス考デアルヤ否ヤソレハ分リマセヌケレドモ、願
ハクハ戸籍法ニ就イテモ同ジ調査ヲ爲シ、數年ノ後ニハ戸籍法ニ於ケル改正
ノ點ヲ一括シテ一ツノ單行法ニシテ提出セラレムコトヲ希望スルノデアリマ
ス、サウシテ是カラハ斯ノ如キ小サナ點ニ一度一度氣ガ付ク毎ニ特別法ヲ提
出スルト云フコトハ止メテ貰ヒタイト云フ、斯ウ云フ希望デアリマシテ、政府
委員ニ於テモ別段異議ハ無カツタヤウデアリマス、私ナドハ何卒サウ云フコト
ニナリタイト思フノデアリマス、ソレ故ニ條件付決議ト云フ譯デハアリマセ
ス、極メテ簡單ナ案デアリマスニ依ッテ何卒讀會ヲ省略シテ直ニ委員會ノ決

議通リニ御決定アラムコトヲ願ヒマス
○男爵南岩倉具威君 讀會省略賛成

○桑田熊藏君 賛成

○田中芳男君 賛成

○武井守正君 賛成

○子爵山口弘達君 賛成

「其他賛成」ト呼ブ者多シ

○議長(公爵德川家達君) 富井君ノ讀會省略ノ動議ハ成規ノ賛成者ガアツタ
ト認メマス、讀會省略ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 三分ノニ以上ト認メマス、原案御異存ゴザイマセ
ヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議無イモノト思ヒマス

○議長(公爵德川家達君) 此際諸君ニ御誥リ致シマスガ、議事日程第十二ヨリ
第二十六マデハ皆請願會議デアリマスガ、一括シテ問題ト致シマシテ御異存
ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

「左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載錄ス」

意見書案

権太島開發ニ關スル件

北海道小樽區花園町平民商辻清太郎外百八十五名呈出

右ノ請願ハ権太島開發ニ關スル施策一ニシテ足ラスト雖就中請願人等ノ實
驗ト本島内外ノ輿論ニ徵シテ考フルトキハ現下ノ最緊急事業ハ先ツ漁村ヲ
設置スルニアリ蓋シ権太島ニ於テハ農ヲ主トスヘキカ將漁業ヲ主トスヘキカ
ニ就テハ從來議論ノ存スルトコロナルモ本島ハ平原渺ナク氣候汎寒ニシテ
農期短ク到底農ニ適セス之ニ反シ漁業ニ至テハ其ノ有利ナル本島四百餘里
ノ長沿岸ハ到ルトコロ漁族ニ富ミ殊ニ大洋ニ面スルヲ以テ容易ニ收獲ノ減
スルコトナク世界中四大漁場ノ一ニ算セラル程ニシテ良ク之ニ處スルノ

途ヲ得ハ數年ナラシテ樺太沿岸ハ般賑ナル漁村トナルヤ必セリ然リ而シテ其ノ組織者タル小民カ小資本ニ依リ生活ノ基礎ヲ立ツルニ足ル鯨刺網業ヲ公許スルヲ肝要ナリトス此ノ鯨刺網ハ魚族ノ繁殖及他ノ漁業ニ對シテ妨害ヲ與フルコトナクシテ其ノ收利莫大ナルヲ以テナリ尙且本島ノ如キ魚族森林炭坑等ニ富メル寶庫ヲ開キテ之ヲ利用セムトセハ先ツ交通ヲ便ニスル必要アルヲ以テ速ニ「ウラジミロフカ」「マウカ」間ノ鐵道敷設ヲ計劃セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ

森林炭坑等ニ富メル寶庫ヲ開キテ之ヲ利用セムトセハ先ツ交通ヲ便ニスル必要アルヲ以テ速ニ「ウラジミロフカ」「マウカ」間ノ鐵道敷設ヲ計劃セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ

明治四十年月日
貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

貴族院議長 公爵徳川 家達

意見書案

利根川治水速成ニ關スル件

群馬縣大里郡男沼村村長田中初外五百五名呈出

右ノ請願ハ利根川改修工事ノ中第三期計劃ニ屬スル當埼玉縣沿岸工事ハ尙十箇年ノ後ナルヲ以テ其ノ間洪水ノ氾濫沿岸ノ埋沒堤塘ノ破壊等ノ爲生命財產ノ安固ヲ保ツ能ハス且被害ノ復舊ニ要スル縣費モ亦莫大ニシテ到底堪ヘサルトコロナルニ依リ第二期及第三期ニ屬スル工事ヲ第一期ノ計劃ニ繰上ケ十箇年ノ繼續事業トシテ之ヲ速成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年月日

貴族院議長 公爵徳川 家達

意見書案

森林法中改正ノ件

群馬縣前橋市新町平民商江原桂三郎外六十六名呈出

右ノ請願ハ近來工業ノ勃興產業ノ發展ニ伴ヒ森林濫伐ノ弊行ハレ爲ニ灌漑用水ノ缺乏及洪水氾濫ノ被害漸次甚シキヲ加ヘタルニ依リ之ヲ救濟スル爲ニハ其ノ水源地ニ造林ヲ盛ニシ保安林輪伐ノ方法ヲ獎勵スルノ要アルヲ以

テ該事業ヲ保護シ且其ノ遂行ヲ容易ナラシムル爲明治三十年法律第四十六號森林法第五十六條中二十五箇年以内トアルヲ「喬林ハ五十箇年以内中林ハ三十箇年以内矮林ハ二十箇年以内」ト改メラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年月日
貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

貴族院議長 公爵徳川 家達

登錄稅法中改正ノ件

群馬縣前橋市新町平民商江原桂三郎外六十六名呈出

右ノ請願ハ曩ニ政府ハ時宜ニ鑑ミ戰後經營トシテ郡市町村基本財產ヲ作成スル爲ニ造林ヲ獎勵セラレタルモ森林經營ハ當初ノ勞費多大ニシテ其ノ利益ヲ收ムルハ數十年ノ後ナルヲ以テ十分之ニ保護ヲ與ヘ其ノ經費ヲ輕減セシムルコトニ努ムルハ至當ノ事ナリ且郡市町村カ基本財產トシテ造林ヲ爲スハ間接ニハ水源涵養洪水防止ノ效アルモノニ付キ之ヲ公用ニ準シテ登錄稅ヲ免除セラレ尙其ノ他原野及荒蕪地ヲ開墾シテ桑園ヲ造リ蠶業ノ經營ニ資シ牧場ヲ設ケテ畜產ノ發達ヲ計ルハ孰レモ國本培養上必要ナルモノナレハ同様ニ登錄稅ヲ免除セラルル爲明治二十九年法律第二十七號登錄稅法第十九條第二號公用ニ供シノ下ニ「又ハ市町村若クハ公立小學校ニ於テ殖產ノ爲基本財產ニ供」ノ二十六字ヲ挿入セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年月日
貴族院議長 公爵徳川 家達

意見書案

利根川河身改修速成ノ件

群馬縣前橋市新町平民商江原桂三郎外六十六名呈出

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

右ノ請願ハ利根川河身改修工事第三期計劃ニ屬スル取手町ヨリ沼ノ上ニ至ル工事ハ尙三箇年ノ後ナルモ從來利根川ハ其ノ水源地ニ於ケル設備不完全ナルカ故ニ毎年出水ノ爲ニ被ル沿岸人民ノ慘害ハ漸次甚シキヲ加フルノミナラス之カ流域ニ沿ヒタル各府縣ノ治水及堤防修築ニ要スル費用ノ増加ハ實ニ甚シク地方產業ノ衰微ヲ來スヘキヲ以テ如斯緩慢ナル計劃ニ放任シ置クコト能ハサルハ明カナルニ依リ其ノ速成ヲ期セムカ爲第二期第三期ノ計劃ヲ一括シテ千葉縣佐原町ヨリ群馬縣佐波郡芝根村大字沼ノ上ニ至ルマテヲ一區域トシ渡良瀬川ヲモ編入シテ第一期間ノ計劃ト改メ起工セラレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

貴族院議長 公爵徳川 家達

電線架設ノ件
意見書案

長崎縣北松浦郡御厨村農長島寬員外百十三名呈出

右ノ請願ハ本道ノ西南部ハ移民日ニ増加シ産業月ニ旺盛ナルニ東北部ノ之ニ反スルハ實ニ交通機關ノ不備ナルニ因ル蓋シ東北部ハ海陸ノ天產物ニ富ミ殊ニ廣漠タル原野ハ幾多ノ移民ヲ招徠シテ耕耘牧畜ヲ爲サシムルニ餘リアリテ將來有望ノ地タルノミナラス千島列島ノ開發東察加、樺太ニ對スル經營ノ上ヨリ觀ルモ其ノ開拓發展ハ刻下ノ急務ナルヲ以テ根室釧路間ノ鐵道ハ明治四十年度ヨリ之カ敷設ニ著手セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

渡良瀬川河身改修ニ關スル件
意見書案

栃木縣足利郡足利町士族公吏長祐之外千四百七十五名呈出

明治四十年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

平戸區裁判所御厨出張所設立ノ件

長崎縣北松浦郡御厨村農長島寬員外百十三名呈出

右ノ請願ハ當御厨村ハ元御厨、大崎、田代ノ三箇村ヨリ成ル本郡北部ノ大村ニシテ之ニ星鹿村ヲ加フルトキハ地域廣大トナリ且土地肥沃ニシテ人口夥多產物豊富其ノ他諸般取引ノ頻繁ナルニ拘ラス區裁判所出張所ノ設ナキカ爲登記事件ハ非常ニ澁滯シ其ノ結果商工業ノ不振ヲ來スコト甚シキヲ以テ速ニ御厨村ニ平戸區裁判所出張所ヲ設置セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

電線架設ノ件
意見書案

貴族院議長 公爵徳川 家達

長崎縣北松浦郡御厨村農長島寬員外百十三名呈出

右ノ請願ハ請願人等ノ地方ハ地域廣大人口多數ニシテ殊ニ海產物ノ如キハ本郡第一ト稱セラレ近來水陸ノ交通運輸頻繁ニシテ電信ニ依リ諸般ノ用務ヲ辦スルモノ益ミキヲ以テ速ニ御厨村ニ電線ヲ架設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

渡良瀬川河身改修ニ關スル件
意見書案

群馬縣邑樂郡伊奈良村平民農山岸淳三郎外百三十三名呈出

同縣安蘇郡植野村平民農木塚泰藏外百十七名呈出

明治四十年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

右ノ請願ハ其ノ陳述スルトコロ多少ノ差異アリト雖要スルニ渡良瀬川ハ足尾銅山ノ礦業盛ナルニ伴ヒ河底埋塞シテ水流通セス其ノ結果洪水氾濫シテ浸水區域擴張シ年年湛水ノ患ニ困ミツツアル當郡等ノ如キハ遂ニ到ルトヨロ廢田トナリアルヘキヲ以テ利根川河身改修工事第二期ノ設計中ニ其ノ支

流タル渡良瀬川ヲ編入シ之ヲ速成セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年月日

貴族院議長 公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

渡良瀬川沿岸特別地價修正漏再修正ノ件

右ノ請願ハ請願人等ノ地方ハ渡良瀬川沿岸中激甚ナル鏽毒被害地ナルニ拘

ラス其ノ上流下流ノ灌漑地殊ニ比較的被害ノ程度尠ナキ隣村ノ如キモ明治三十七年法律第十六號ニ依リ皆地價修正ヲ得タルニ獨リ本村ハ其ノ修正ニ漏レタルヲ以テ齊シク特別地價修正ヲ受ケタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年月日

貴族院議長 公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

鏽毒被害地地價修正漏地價再修正ノ件

群馬縣新田郡鳥之郷村平民農石橋類一郎外三十七名呈出

右ノ請願ハ請願人等ノ地方ハ鏽毒被害地ナルヲ以テ曩ニ明治二十七年法律

第十六號ニ依リ特別地價修正ヲ施サレタルモ只其ノ一小部分ニ止リ他ニ尙未修正ノ田地段別多キヲ以テ再調査ノ上齊シク之カ恩典ニ浴セシメラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年月日

貴族院議長 公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案
鏽毒被害地地價修正ニ對シ再修正ノ件

群馬縣新田郡鳥之郷村平民農石橋類一郎外三十七名呈出

右ノ請願ハ其ノ陳述スルトコロ多少ノ差異アリト雖要スルニ請願人等ノ地方ハ鏽毒被害地ナルヲ以テ明治三十七年法律第十六號ニ依リ地價修正セラレタルモ之ヲ下流ニ在テ被害ノ程度比較的輕少ナル地方ニ比スルトキハ大ニ權衡ヲ失スルヲ以テ再調査ノ上公平ナル地價修正ノ恩典ニ浴セシメラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年月日

貴族院議長 公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

渡良瀬川沿岸特別地價再修正院議實行ノ件

群馬縣山田郡韭川村平民農高橋千代造外八十六名呈出

右ノ請願ハ當渡良瀬川ノ沿岸ナル群馬縣山田郡韭川村毛里田村矢場村林泊村ハ明治三十七年法律第十六號ニ依リ概不下級ノ等級ヲ以テ地價修正セラレタリト雖之ヲ下流ノ隣村ニ比スルトキハ尙權衡ヲ失スルノミナラス畑地ニ屬スル分ハ未タ全ク修正セラレサルヲ以テ明治三十八、九年ニ帝國議會ニ請願シ幸ニ可決セラレタルモ未タ其ノ實行ヲ見サルニ依リ速ニ調査ノ上再修正ノ恩典ニ浴セシメラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年月日

貴族院議長 公爵徳川家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案
酒田新莊間鐵道速成ノ件

酒田商業會議所會頭白崎善吉呈出

山形縣飽海郡鶴渡川原村平民農水越權之助外二百十四名呈出

右ノ請願ハ新莊酒田間ノ鐵道敷設ハ文化ノ增進地方產業ノ發達ヲ促スノミナラス早晚敷設ノ計劃ヲ見ルヘキ越羽沿岸鐵道ト奥羽南北線トノ連絡ヲ保ツヘキ樞要ノ線路ニシテ且國防上忽諸ニ付スヘカラサルモノナルヲ以テ該

線路ヲ鐵道敷設法中ノ第一期線ニ繰上ケ速ニ起工セラレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條

ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

越羽沿岸鐵道速成ノ件

酒田商業會議所會頭白崎善吉呈出

山形縣飽海郡鶴渡川原村平民農水越權之助外二百十四名呈出

右ノ請願ハ新潟縣新發田ヨリ山形縣鶴岡酒田ヲ經テ秋田縣秋田ニ至ル越羽沿岸鐵道ノ敷設ハ曩ニ豫定線ニ編入セラレタルモ其ノ敷設ノ時期未タ確定セス而シテ該線路ノ敷設ハ實益上及戰後經營上現下ノ最大急務ナルニ依リ之カ速成ヲ計ラレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

船形酒田間鐵道速成ノ件

山形縣酒田町町長池田藤八郎呈出

右ノ請願ハ奥羽本線ヨリ分岐シテ山形縣船形ヨリ同縣酒田ニ至ル鐵道ハ既ニ豫定線ニ編入セラレタルモ酒田ハ東北有數ノ港ニシテ新潟秋田ノ中央ニシ雷ニ地方產物ノ集散地タルノミナラス北海道以北及新潟、秋田兩縣ト

商業上密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ一度該鐵道ニシテ開通セラレムカ忽チ各地方ノ發展ヲ促スハ勿論早晚敷設セラルヘキ越羽沿岸鐵道ノ工事ニ至大ノ利便ヲ與フルモノナルニ依リ他ノ豫定線ニ先チ起工セラレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

意見書案

宮津福知山間鐵道急設ノ件

京都府與謝郡宮津町平民醫師中川雄齋外二百九十八名呈出

右ノ請願ハ宮津港ハ十餘年前既ニ特別輸出港トセラレタルモ鐵道ノ敷設ナキ爲水陸ノ連絡ヲ闕キ實際上商港タル利益ヲ世人ニ與フルコト能ハス然レトモ一度其ノ敷設ヲ見ルニ至レハ南海岸ノ貫通シテ京阪諸地方トノ運輸交通ヲ盛ムニシ延テ日本海ノ諸港ハ勿論沿海州及滿韓ノ諸港トノ通商貿易ニ利便ヲ與フルヲ以テ宮津港ヲ純然タル貿易港トセラレ而シテ宮津福知山間凡二十哩或ハ宮津下川口間凡十六哩ノ鐵道ヲ速ニ敷設セラレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治四十年 月 日

貴族院議長 公爵徳川 家達

内閣總理大臣侯爵西園寺公望殿

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十ヨリ第二十六マデ請願ハ皆請願委員長報告ヲ採擇シテ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイモノト認スマス、是デ本日ノ議事ハ終リマシタ、次ノ議事日程ハ決定次第御通知ニ及ビマス、本日ハ是デ散會ヲ致シマス

午後零時三分散會